

第2章 高齢者を取り巻く現状と課題

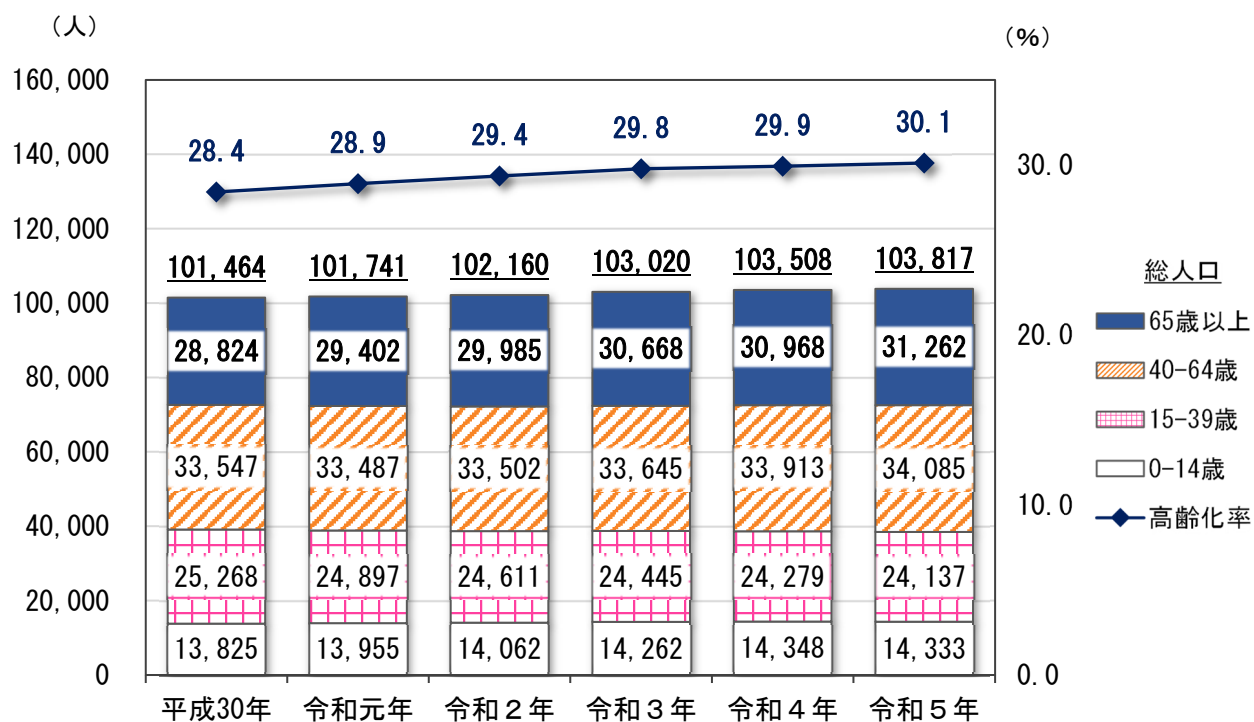
1 人口及び世帯の状況

(1) 人口及び高齢化の推移

平成30年から令和5年までの住民基本台帳*人口をみると、本市の総人口は緩やかに増加しています。

年齢階層別にみると、15歳から39歳は減少しており、その他の年代では増加傾向にあります。65歳以上では、平成30年から令和5年までの間に2,438人増加しており、高齢化率も緩やかに増加しています。

■ 住民基本台帳からみた人口及び高齢化率の推移



注：高齢化率 (%) = 65歳以上人口 ÷ 総人口 × 100
資料：住民基本台帳（各年9月末日現在）

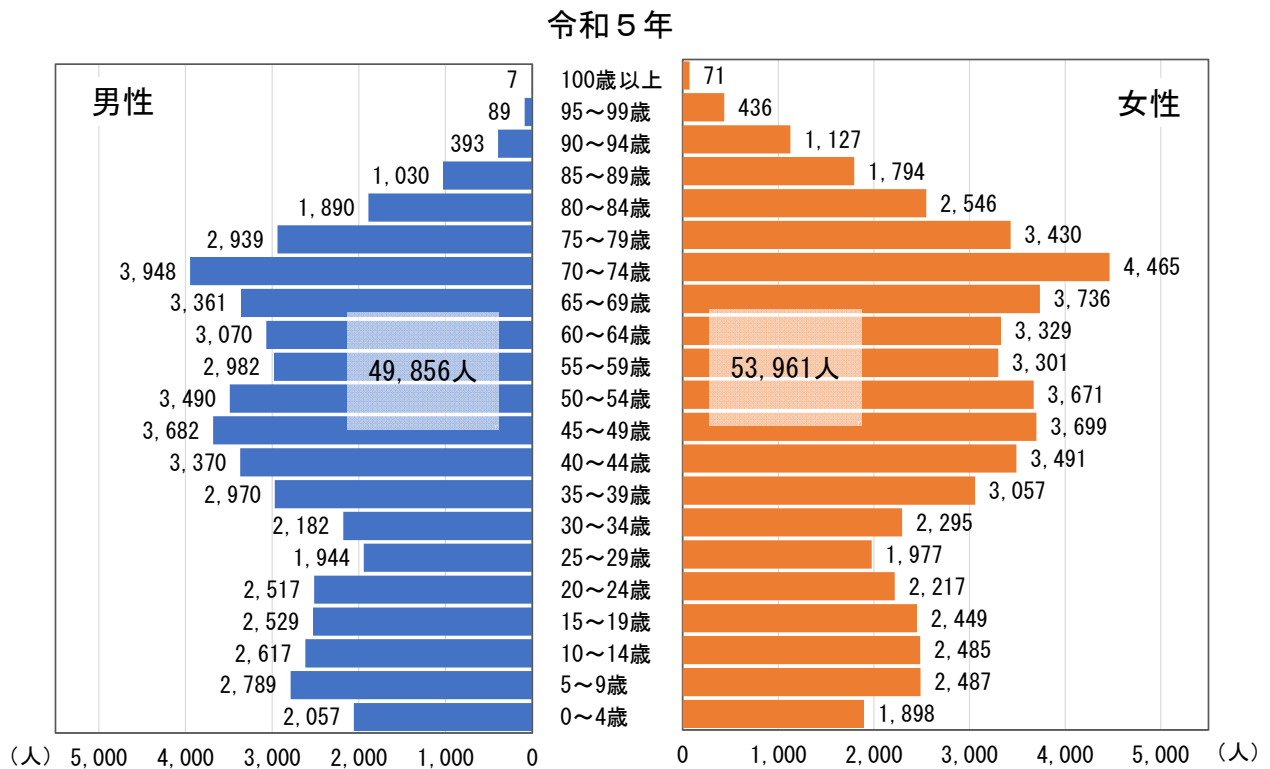
(2) 人口ピラミッド

令和5年9月末日現在の住民基本台帳人口に基づく5歳階級別人口ピラミッドをみると、70～74歳の人口が男女ともに最も多くなっています。

性別にみると、男性は70～74歳が3,948人で最も多く、次いで45～49歳の3,682人の順となっています。女性は70～74歳が4,465人で最も多く、次いで65～69歳の3,736人の順となっています。

これらの45～74歳の年齢層が今後75歳以上の後期高齢者にあたる世代になることから、後期高齢者の比率が上昇する見込みです。

■ 5歳階級別人口ピラミッド（糸島市）



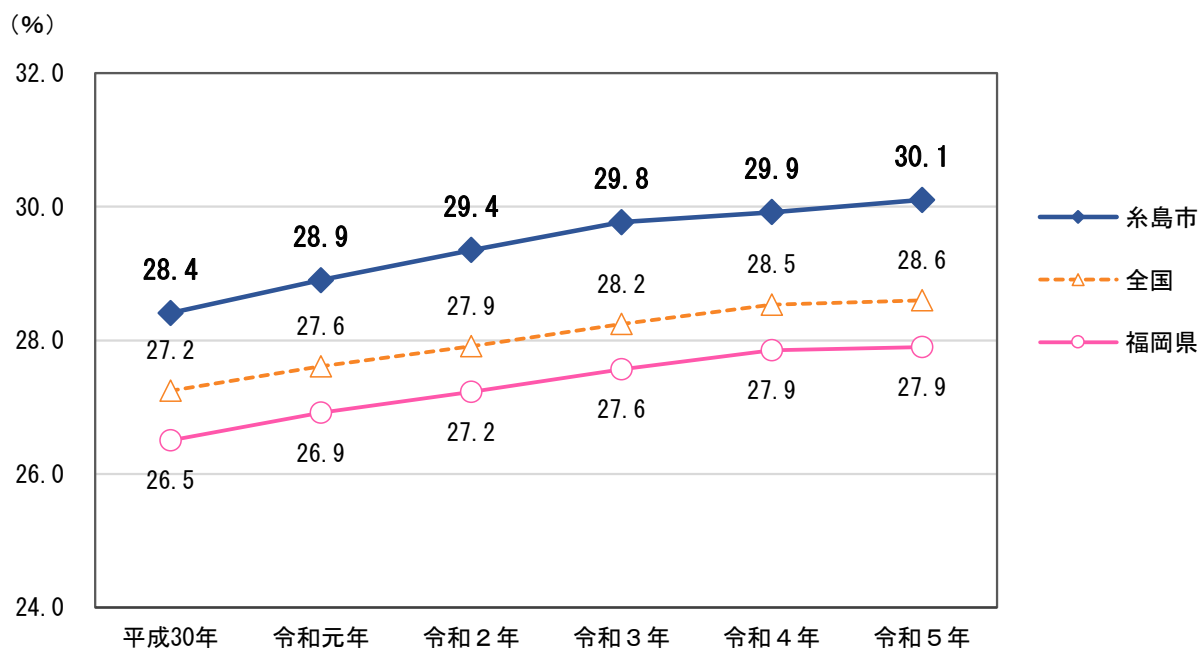
資料：令和5年9月末日住民基本台帳人口

(3) 高齢化率の推移

住民基本台帳人口からみた高齢化率（総人口に占める65歳以上人口の割合）についてみると、本市は平成30年の28.4%から令和5年には30.1%と、5年間で1.7ポイント上昇しています。

本市の高齢化率は、全国、福岡県と比較しても高い水準で推移しています。

■ 高齢化率の推移（糸島市）



注：高齢化率（%）＝65歳以上人口÷総人口×100

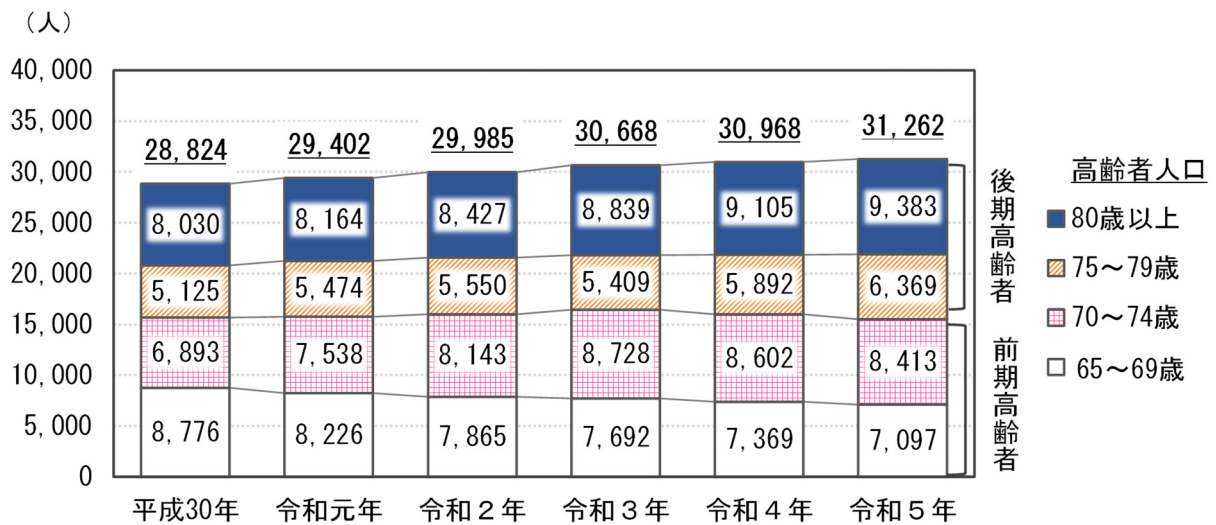
資料：糸島市は住民基本台帳（各年9月末日現在）

福岡県、全国は住民基本台帳人口・世帯数表（各年1月1日現在）

(4) 高齢者の人口構造

住民基本台帳人口に基づく65歳以上の高齢者人口について、前期高齢者(65～74歳)は平成30年から令和3年まで増加傾向でしたが、団塊の世代が後期高齢者に移行し始めているため、令和4年に減少しています。一方、後期高齢者(75歳以上)は平成30年以降増加を続けています。

■ 高齢者の人口構造 (糸島市)



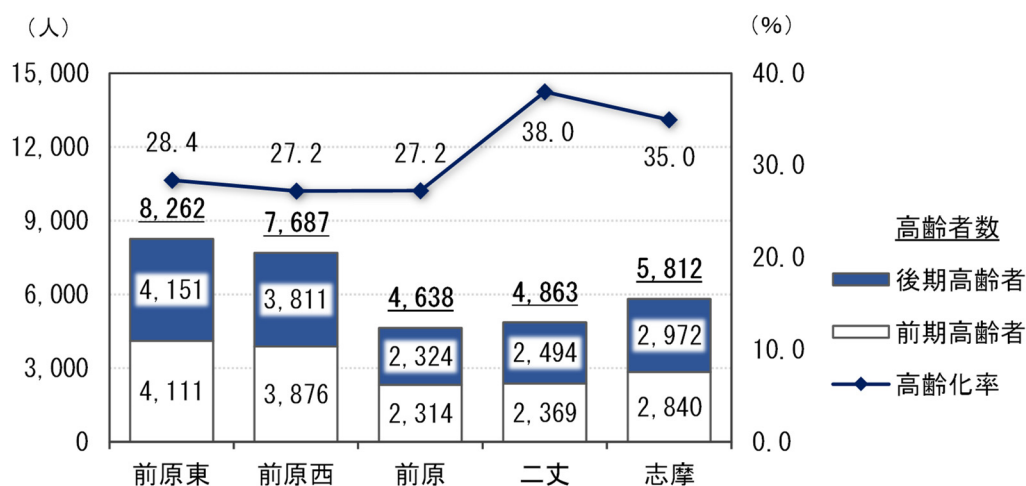
	平成30年		令和元年		令和2年		令和3年		令和4年		令和5年	
	人数 (人)	構成比 (%)	人数 (人)	構成比 (%)	人数 (人)	構成比 (%)	人数 (人)	構成比 (%)	人数 (人)	構成比 (%)	人数 (人)	構成比 (%)
高齢者人口 (65歳以上人口)	28,824	28.4	29,402	28.9	29,985	29.4	30,668	29.8	30,968	29.9	31,262	30.1
前期高齢者	15,669	15.4	15,764	15.5	16,008	15.7	16,420	15.9	15,971	15.4	15,510	14.9
65～69歳	8,776	8.6	8,226	8.1	7,865	7.7	7,692	7.5	7,369	7.1	7,097	6.8
70～74歳	6,893	6.8	7,538	7.4	8,143	8.0	8,728	8.5	8,602	8.3	8,413	8.1
後期高齢者	13,155	13.0	13,638	13.4	13,977	13.7	14,248	13.8	14,997	14.5	15,752	15.2
75～79歳	5,125	5.1	5,474	5.4	5,550	5.4	5,409	5.3	5,892	5.7	6,369	6.1
80歳以上	8,030	7.9	8,164	8.0	8,427	8.2	8,839	8.6	9,105	8.8	9,383	9.0
総人口	101,464	100.0	101,741	100.0	102,160	100.0	103,020	100.0	103,508	100.0	103,817	100.0

資料：住民基本台帳（各年9月末日現在）

(5) 日常生活圏域別にみた高齢者人口と高齢化率

本市では、おおむね中学校区を単位として、5つの日常生活圏域（以下「圏域」という。）を設定しています。令和5年9月末日現在の住民基本台帳人口を圏域別にみると、65歳以上の高齢者人口が最も多いのは前原東圏域（8,262人）、次いで前原西圏域（7,687人）の順となっています。一方、高齢化率でみると、二丈圏域が38.0%で最も高く、次いで志摩圏域（35.0%）の順となっています。

■ 日常生活圏域別にみた高齢者人口及び高齢化率



圏域	小学校区	総人口 (人)	前期高齢者 (65~74歳) (人)	後期高齢者 (75歳以上) (人)	高齢者数 (65歳以上) (人)	高齢化率 (%)
前原東	波多江	12,554	1,648	1,790	3,438	27.4
	東風	9,618	1,047	1,001	2,048	21.3
	怡土	6,933	1,416	1,360	2,776	40.0
	計	29,105	4,111	4,151	8,262	28.4
前原西	前原	12,265	1,655	1,494	3,149	25.7
	南風	8,519	942	975	1,917	22.5
	加布里	7,469	1,279	1,342	2,621	35.1
	計	28,253	3,876	3,811	7,687	27.2
前原	前原南	11,146	1,323	1,365	2,688	24.1
	長糸	1,899	377	346	723	38.1
	雷山	3,985	614	613	1,227	30.8
	計	17,030	2,314	2,324	4,638	27.2
二丈	一貴山	3,502	669	698	1,367	39.0
	深江	5,403	992	1,002	1,994	36.9
	福吉	3,898	708	794	1,502	38.5
	計	12,803	2,369	2,494	4,863	38.0
志摩	可也	9,328	1,481	1,423	2,904	31.1
	桜野	2,342	444	458	902	38.5
	引津	4,956	915	1,091	2,006	40.5
	計	16,626	2,840	2,972	5,812	35.0
総計		103,817	15,510	15,752	31,262	30.1

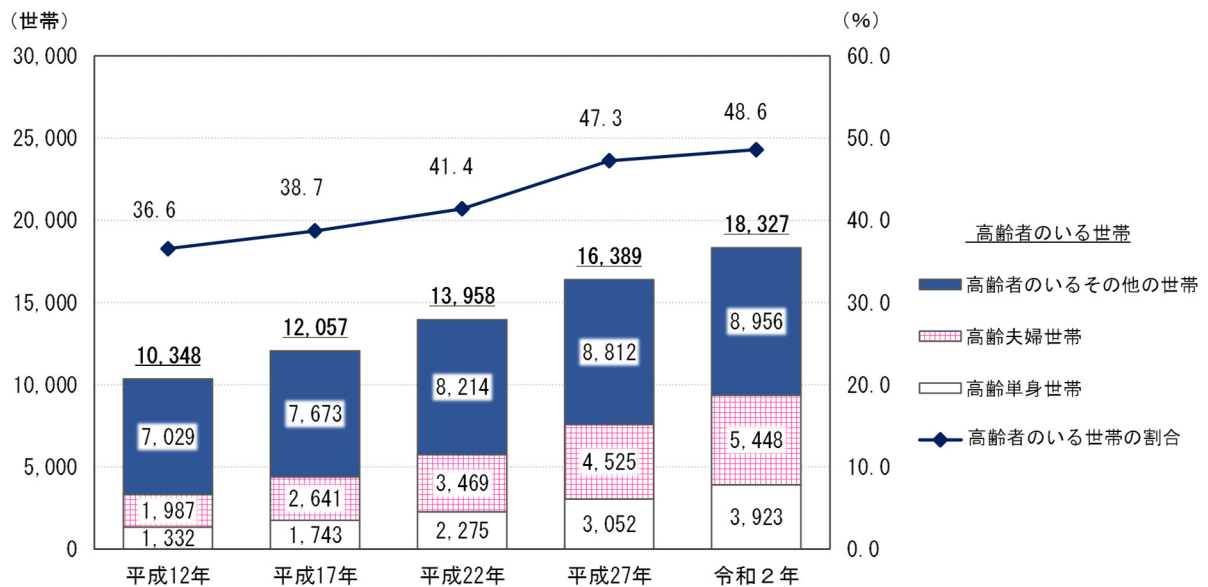
資料：住民基本台帳（令和5年9月末日現在）

(6) 高齢者のいる世帯の状況

本市の高齢者のいる世帯は、平成12年以降増加傾向にあり、令和2年の高齢者のいる世帯数は18,327世帯で、一般世帯（総世帯から施設等の世帯を除いたもの）数に占める割合は48.6%となっています。

また、高齢者のいる世帯の内訳をみると、平成12年以降、高齢単身世帯と高齢夫婦世帯の構成比が高くなっており、高齢者のみの世帯が増加していることがわかります。

■ 高齢者のいる世帯の状況の推移



	平成12年		平成17年		平成22年		平成27年		令和2年	
	世帯数 (世帯)	構成比 (%)	世帯数 (世帯)	構成比 (%)	世帯数 (世帯)	構成比 (%)	世帯数 (世帯)	構成比 (%)	世帯数 (世帯)	構成比 (%)
高齢者のいる世帯	10,348	36.6	12,057	38.7	13,958	41.4	16,389	47.3	18,327	48.6
高齢単身世帯	1,332	4.7	1,743	5.6	2,275	6.7	3,052	8.8	3,923	10.4
高齢夫婦世帯	1,987	7.0	2,641	8.5	3,469	10.3	4,525	13.0	5,448	14.4
高齢者のいるその他の世帯	7,029	24.8	7,673	24.6	8,214	24.4	8,812	25.4	8,956	23.7
一般世帯総数	28,310	100.0	31,145	100.0	33,720	100.0	34,685	100.0	37,721	100.0

注1：高齢単身世帯とは、65歳以上の一人のみの一般世帯。

注2：高齢夫婦世帯とは、夫65歳以上、妻60歳以上の夫婦1組のみの一般世帯。

注3：構成比(%)は、一般世帯数を100としたときの比率。

資料：各年国勢調査

2 高齢者の日常生活と社会参加の状況

(介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果より抜粋)

(1) 高齢者の日常生活について

① 要介護状態になる危険性が高い人の割合

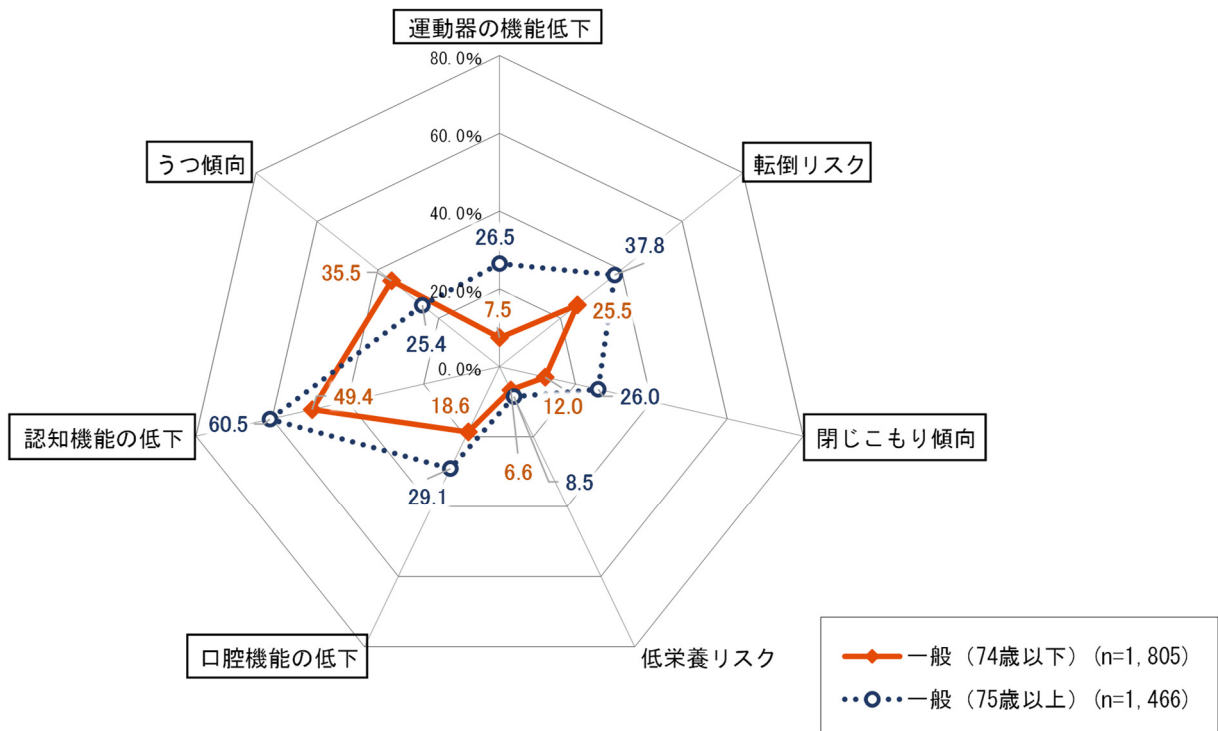
運動機能の低下や転倒リスクの上昇などの心身の機能低下は、入浴や移動など、日常生活における活動を低下させる要因となります。

また、外出控えなど、活動量が低下したことにより、運動機能の低下などの心身の機能低下の危険が高くなり、要介護状態になることもあります。そのため、高齢者においては、心身の機能の維持と併せて生活機能の維持を図ることにより、介護予防及び重度化防止に向けた取組を実施する必要があります。

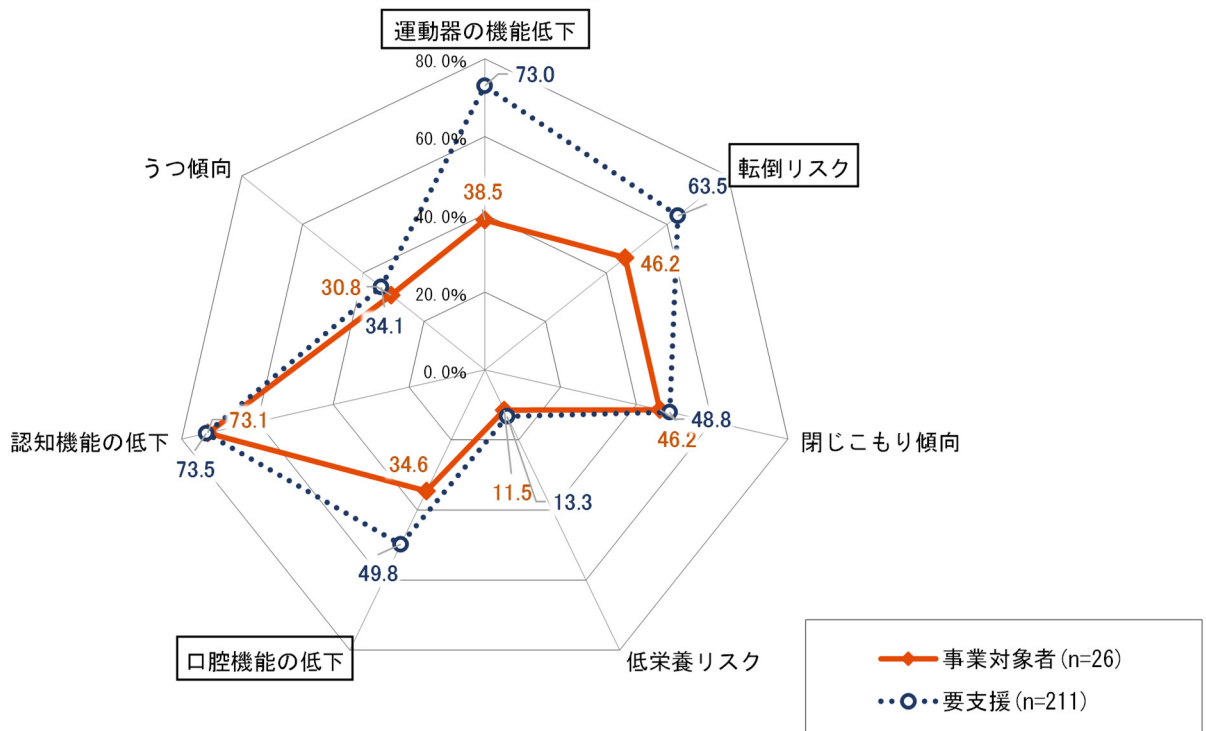
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果から、一般高齢者における要介護状態になる危険因子の割合をみると、認知機能の低下が最も高くなっています。年代別にみると、75歳以上の方は74歳以下の人に比べ、うつ傾向以外のリスクが高くなっています(次頁上図)。また、運動器の機能低下、転倒リスク、閉じこもり傾向、口腔機能の低下、認知機能の低下は75歳以上と74歳以下の差が10ポイント以上開いています。このことから加齢に伴い、心身の機能や地域社会への参加などの生活機能が低下しており、要介護状態になる危険性が高まっていることがわかります(次頁下図)。

要支援者は、事業対象者^{*}に比べ、運動器の機能低下が34.5ポイント高くなっています。このことから運動器機能の低下は、要介護状態になる最大の危険因子であることがわかります。

■ 要介護状態になる危険因子の割合（一般高齢者）



■ 要介護状態になる危険因子の割合（事業対象者・要支援者）



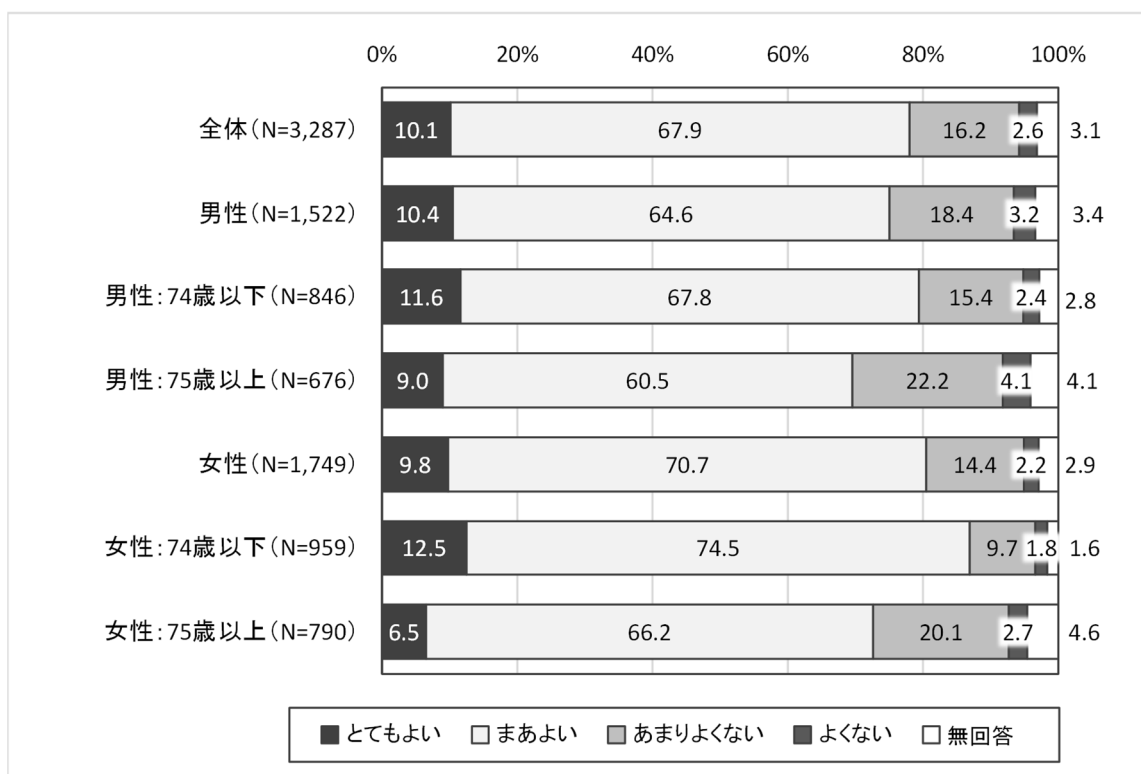
② 主観的健康観

全体では、「まあよい」と回答した人の割合が 67.9%で最も高く、「とてもよい」(10.1%)と合わせた『よい』は 78%と、全体のおよそ8割を占めています。

性別にみると、男性は女性よりも「あまりよくない」(18.4%)、「よくない」(3.2%)の割合が高くなっています。

年代別にみると、性別に関係なく年代が上がるほど、「とてもよい」、「まあよい」の割合が減少しています。

■主観的健康観（性別・年代別）



■主観的健康観（性別・年代別・日常生活圏域別）

属性	区分	全体	とてもよい	まあよい	あまりよくない	よくない	無回答
総数	-	100.0	10.1	67.9	16.2	2.6	3.1
		3,287	333	2,232	533	86	103
性別	男性	100.0	10.4	64.6	18.4	3.2	3.4
		1,522	159	983	280	48	52
	女性	100.0	9.8	70.7	14.4	2.2	2.9
		1,749	171	1,237	252	38	51
	無回答	100.0	18.8	75.0	6.3	0.0	0.0
		16	3	12	1	0	0
年齢	65～69歳	100.0	14.4	72.4	10.2	1.3	1.7
		842	121	610	86	11	14
	70～74歳	100.0	10.1	70.4	14.2	2.7	2.6
		963	97	678	137	26	25
	75～79歳	100.0	8.3	67.9	17.3	3.0	3.6
		676	56	459	117	20	24
	80～84歳	100.0	8.3	60.5	22.2	3.1	5.9
		423	35	256	94	13	25
	85～89歳	100.0	7.0	60.5	25.9	3.3	3.3
		243	17	147	63	8	8
	90歳以上	100.0	3.2	56.5	28.2	6.5	5.6
		124	4	70	35	8	7
	無回答	100.0	18.8	75.0	6.3	0.0	0.0
		16	3	12	1	0	0
日常生活圏域	前原東	100.0	7.9	71.2	15.8	2.6	2.4
		657	52	468	104	17	16
	前原西	100.0	10.4	68.1	16.3	2.4	2.8
		675	70	460	110	16	19
	前原	100.0	10.4	66.5	16.9	3.0	3.2
		663	69	441	112	20	21
	二丈	100.0	11.5	66.3	16.1	2.7	3.4
		626	72	415	101	17	21
	志摩	100.0	10.3	67.1	16.2	2.5	4.0
		650	67	436	105	16	26
無回答	100.0	18.8	75.0	6.3	0.0	0.0	
	16	3	12	1	0	0	

③ 介護予防のために実践していること

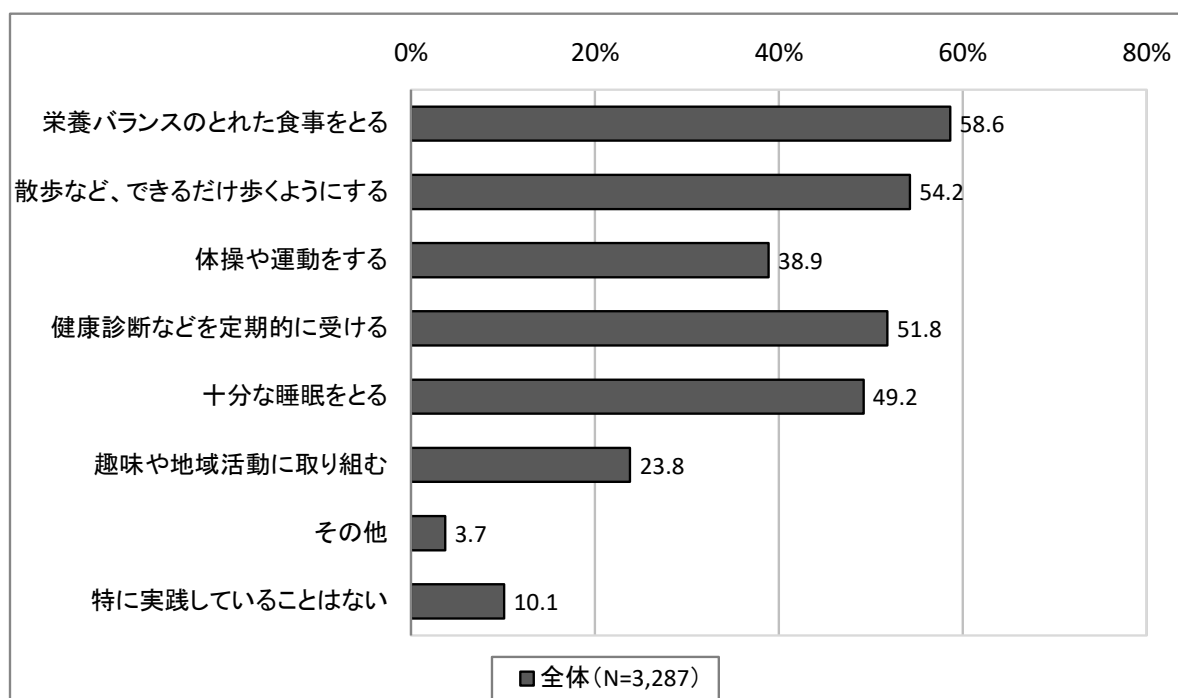
全体では、「栄養バランスのとれた食事をする」(58.6%)が最も高く、次いで「散歩など、できるだけ歩くようにする」が54.2%、「健康診断などを定期的に受ける」が51.8%、「十分な睡眠をとる」が49.2%と続いています。

性別にみると、男性に比べ女性の方が「栄養バランスのとれた食事をする」(65.4%)、「散歩など、できるだけ歩くようにする」(55.3%)、「体操や運動をする」(41.8%)、「健康診断などを定期的に受ける」(52.9%)、「十分な睡眠をとる」(50.7%)と答えた割合が高くなっています。

年代別にみると、65～84歳では「栄養バランスのとれた食事をする」が最も高くなっています。また、85～89歳では「散歩など、できるだけ歩くようにする」、90歳以上では「十分な睡眠をとる」が最も高くなっています。

圏域別にみると、いずれの圏域も「栄養バランスのとれた食事をする」が最も高くなっています。

■ 介護予防のために実践していること



■介護予防のために実践していること（性別・年代別・日常生活圏域別）

属性	区分	全体	栄養バランスのとれた食事をとる	散歩など、できるだけ歩くようにする	体操や運動をする	健康診断などを定期的に受ける	十分な睡眠をとる	趣味や地域活動に取り組む	その他	特に実践していることは
総数	-	100.0	58.6	54.2	38.9	51.8	49.2	23.8	3.7	10.1
		3,287	1,927	1,783	1,278	1,703	1,617	783	122	333
性別	男性	100.0	50.8	53.0	35.5	50.5	47.3	25.0	4.0	10.7
		1,522	773	806	541	769	720	380	61	163
	女性	100.0	65.4	55.3	41.8	52.9	50.7	22.9	3.3	9.7
		1,749	1,143	968	731	925	886	400	57	170
	無回答	100.0	68.8	56.3	37.5	56.3	68.8	18.8	25.0	0.0
		16	11	9	6	9	11	3	4	0
年齢	65～69歳	100.0	60.2	52.4	40.9	57.6	47.5	25.4	3.7	8.7
		842	507	441	344	485	400	214	31	73
	70～74歳	100.0	56.7	52.3	39.6	52.9	46.9	26.1	2.5	11.2
		963	546	504	381	509	452	251	24	108
	75～79歳	100.0	61.4	58.4	39.6	53.8	51.0	28.1	4.6	9.0
		676	415	395	268	364	345	190	31	61
	80～84歳	100.0	59.6	57.2	38.3	47.3	50.4	20.6	3.1	11.3
		423	252	242	162	200	213	87	13	48
	85～89歳	100.0	54.7	56.4	32.5	36.6	54.3	13.2	4.5	10.7
		243	133	137	79	89	132	32	11	26
	90歳以上	100.0	50.8	44.4	30.6	37.9	51.6	4.8	6.5	13.7
		124	63	55	38	47	64	6	8	17
	無回答	100.0	68.8	56.3	37.5	56.3	68.8	18.8	25.0	0.0
		16	11	9	6	9	11	3	4	0
日常生活圏域	前原東	100.0	59.2	55.6	40.9	53.1	52.4	22.8	2.7	10.5
		657	389	365	269	349	344	150	18	69
	前原西	100.0	61.6	57.5	41.0	53.8	49.5	24.9	2.4	9.0
		675	416	388	277	363	334	168	16	61
	前原	100.0	60.0	52.5	37.1	49.2	48.4	22.3	4.1	8.4
		663	398	348	246	326	321	148	27	56
	二丈	100.0	56.2	53.2	36.9	49.5	46.6	22.8	4.2	12.9
		626	352	333	231	310	292	143	26	81
	志摩	100.0	55.5	52.3	38.3	53.2	48.5	26.3	4.8	10.2
		650	361	340	249	346	315	171	31	66
無回答	100.0	68.8	56.3	37.5	56.3	68.8	18.8	25.0	0.0	
	16	11	9	6	9	11	3	4	0	

④ 参加したい介護予防の取組

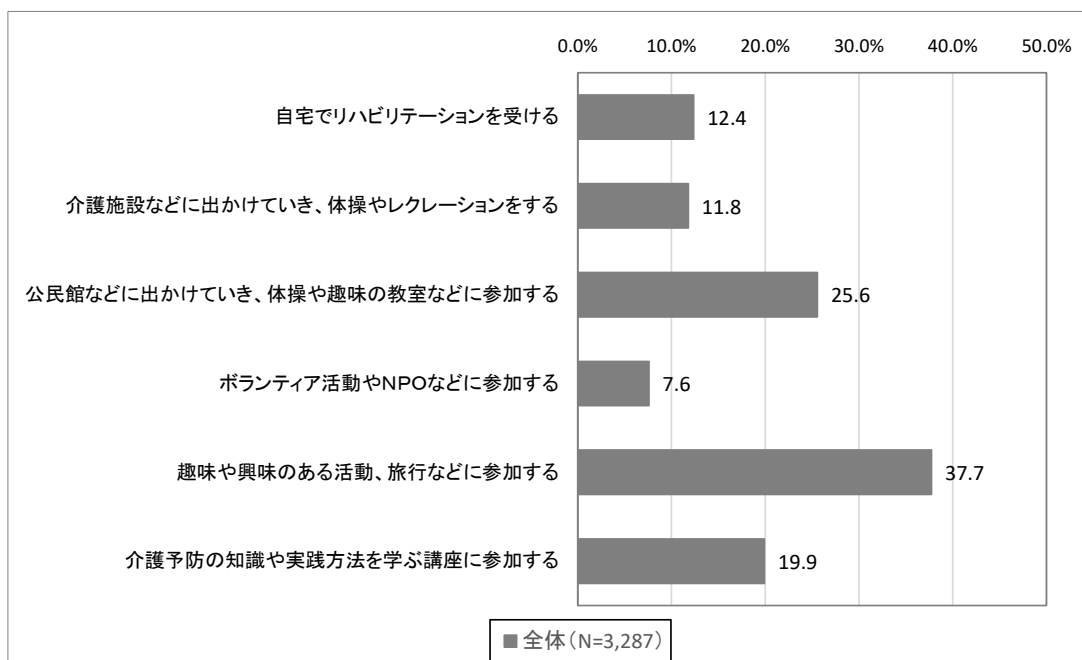
全体では、「趣味や興味のある活動、旅行などに参加する」が37.7%で最も高く、次いで「公民館などに出かけていき、体操や趣味の教室などに参加する」が25.6%となっています。

性別にみると、男性は女性に比べ「趣味や興味のある活動、旅行などに参加する」(39.9%)、「自宅でリハビリテーションを受ける」(14.5%)、「ボランティア活動やNPO*などに参加する」(7.8%)で高くなっています。反対に女性の方が男性より高いのは「公民館などに出かけていき、体操や趣味の教室などに参加する」(31.8%)、「介護予防の知識や実践方法を学ぶ講座に参加する」(22.8%)、「介護施設などに出かけていき、体操やレクレーションをする」(12.9%)となっています。

年代別にみると、「自宅でリハビリテーションを受ける」「介護施設などに出かけていき、体操やレクレーションをする」は年代が上がるほど参加意向が高まる傾向にあります。

圏域別にみると、いずれの圏域も「趣味や興味のある活動、旅行などに参加する」の割合が高い結果となっています。

■ 参加したい介護予防の取組



■参加したい介護予防の取組（性別・年代別・日常生活圏域別）

属性	区分	全体	自宅 でリハ ビリテ ーショ ンを受 ける	介護 施設 など に出 かけ て シヨ ンを する	公民 館な どに 参加 する ど き、 体操 や趣 味の 教室 など に出 かけ て ない	ボラ ンテ ィア 活動 やN P など に参 加す る	趣味 や興 味の ある 活動 、 旅行 など に参 加す る	介護 予防 の知 識や 実践 方 法を 学ぶ 講座 に参 加す る
総数	-	100.0	12.4	11.8	25.6	7.6	37.7	19.9
		3,287	407	388	840	250	1,240	655
性別	男性	100.0	14.5	10.7	18.4	7.8	39.9	16.8
		1,522	220	163	280	118	607	255
	女性	100.0	10.7	12.9	31.8	7.4	35.7	22.8
		1,749	187	225	556	130	624	399
無回答	100.0	0.0	0.0	25.0	12.5	56.3	6.3	
	16	0	0	4	2	9	1	
年齢	65～69歳	100.0	9.1	9.4	27.0	10.7	45.7	22.8
		842	77	79	227	90	385	192
	70～74歳	100.0	9.3	9.9	25.5	7.8	43.6	21.0
		963	90	95	246	75	420	202
	75～79歳	100.0	12.9	10.5	28.3	7.1	39.5	21.3
		676	87	71	191	48	267	144
	80～84歳	100.0	18.0	15.8	24.3	6.9	25.1	16.3
		423	76	67	103	29	106	69
	85～89歳	100.0	21.4	20.2	20.6	2.5	18.5	13.6
		243	52	49	50	6	45	33
90歳以上	100.0	20.2	21.8	15.3	0.0	6.5	11.3	
	124	25	27	19	0	8	14	
無回答	100.0	0.0	0.0	25.0	12.5	56.3	6.3	
	16	0	0	4	2	9	1	
日常生活圏域	前原東	100.0	11.7	12.8	26.6	7.0	39.1	20.1
		657	77	84	175	46	257	132
	前原西	100.0	11.6	10.4	23.0	7.9	42.2	19.6
		675	78	70	155	53	285	132
	前原	100.0	14.6	12.1	26.2	7.7	32.6	22.2
		663	97	80	174	51	216	147
	二丈	100.0	12.6	12.0	25.2	7.7	37.9	18.2
626		79	75	158	48	237	114	
志摩	100.0	11.7	12.2	26.8	7.7	36.3	19.8	
	650	76	79	174	50	236	129	
無回答	100.0	0.0	0.0	25.0	12.5	56.3	6.3	
	16	0	0	4	2	9	1	

⑤ 地域包括支援センターの認知度

全体では、『知っている』人は72.9%、「知らない」人は23.0%となっています。

性別にみると、『知っている』人の割合は男性（66.8%）よりも女性（78.2%）の方が高くなっています。

年齢別にみると、「知らない」人の割合は70～74歳（25.2%）で最も高く、次いで65～69歳（23.2%）となっています。

圏域別にみると、『知っている』人はいずれの圏域も7割を超えています。なお、「知っており、利用したことがある人」の割合は前原圏域（15.4%）が最も高くなっています。

注：『知っている』は「知っており、利用したことがある」、「知っているが、利用したことはない」、「名前は聞いたことがある」を合わせた割合

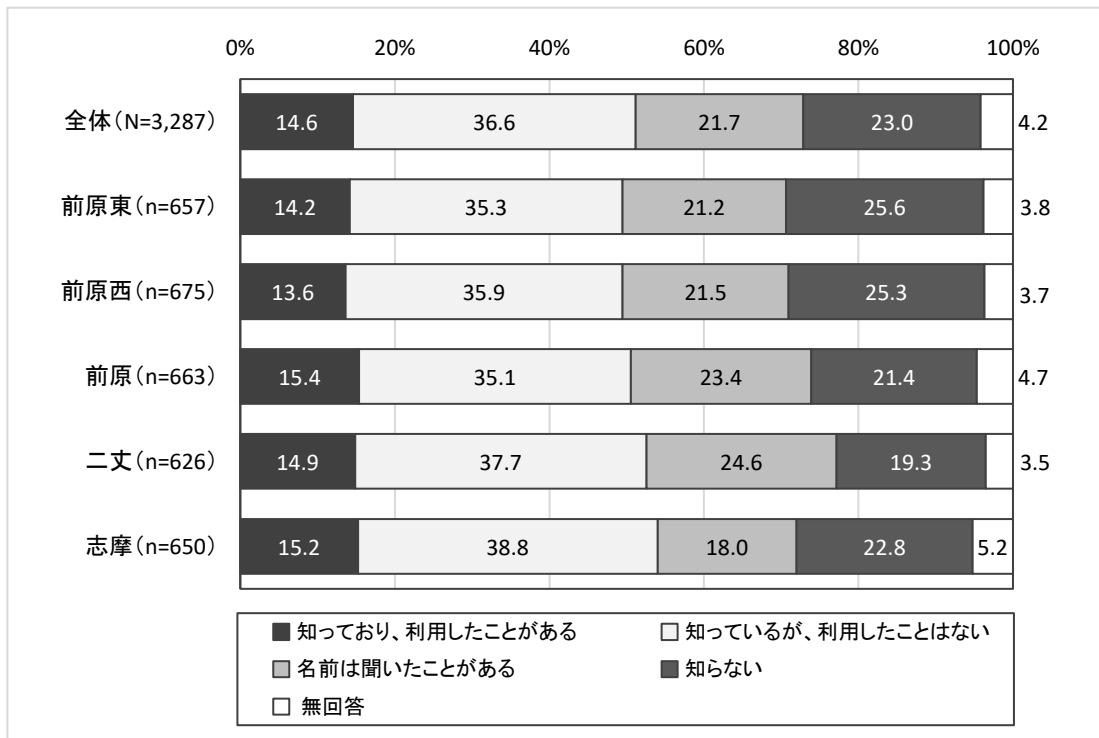
■ 地域包括支援センターの認知度（性別・年代別・日常生活圏域別）

属性	区分	全体	し知 た こ と お り 、 利 用	用知 し た こ と は が 、 利	が名 前 は 聞 い た こ と あ る	知 ら な い	無 回 答
総数	-	100.0 3,287	14.6 480	36.6 1,202	21.7 713	23.0 755	4.2 137
性別	男性	100.0 1,522	11.3 172	34.2 521	21.3 324	28.8 438	4.4 67
	女性	100.0 1,749	17.6 307	38.5 674	22.1 386	17.8 312	4.0 70
	無回答	100.0 16	6.3 1	43.8 7	18.8 3	31.3 5	0.0 0
年齢	65～69歳	100.0 842	14.3 120	39.9 336	21.1 178	23.2 195	1.5 13
	70～74歳	100.0 963	11.4 110	37.0 356	22.5 217	25.2 243	3.8 37
	75～79歳	100.0 676	13.6 92	35.9 243	25.6 173	21.0 142	3.8 26
	80～84歳	100.0 423	14.2 60	36.9 156	20.8 88	21.5 91	6.6 28
	85～89歳	100.0 243	22.6 55	32.1 78	14.8 36	21.8 53	8.6 21
	90歳以上	100.0 124	33.9 42	21.0 26	14.5 18	21.0 26	9.7 12
	無回答	100.0 16	6.3 1	43.8 7	18.8 3	31.3 5	0.0 0
日常生活圏域	前原東	100.0 657	14.2 93	35.3 232	21.2 139	25.6 168	3.8 25
	前原西	100.0 675	13.6 92	35.9 242	21.5 145	25.3 171	3.7 25
	前原	100.0 663	15.4 102	35.1 233	23.4 155	21.4 142	4.7 31
	二丈	100.0 626	14.9 93	37.7 236	24.6 154	19.3 121	3.5 22
	志摩	100.0 650	15.2 99	38.8 252	18.0 117	22.8 148	5.2 34
	無回答	100.0 16	6.3 1	43.8 7	18.8 3	31.3 5	0.0 0

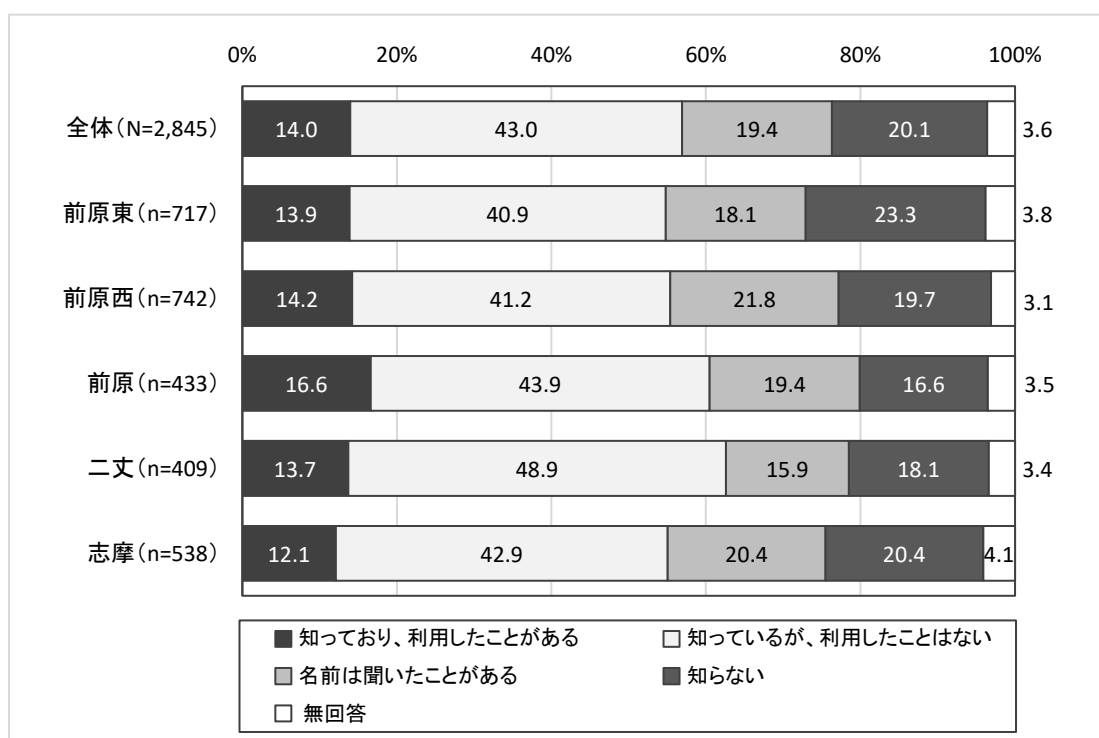
令和元年度に実施した前回の調査結果と比較すると、全体で「知らない」人の割合は20.1%から23.0%と増加しています。圏域別にみても、いずれの圏域でも「知らない」人の割合が増加しています。

一方、全体では「知っており、利用したことがある」人の割合は14.0%から14.6%と増加しており、相談機関としての包括センターの役割は向上しています。

■ 地域包括支援センターの認知度（日常生活圏域別）



■ 地域包括支援センターの認知度（日常生活圏域別）（令和元年度調査）



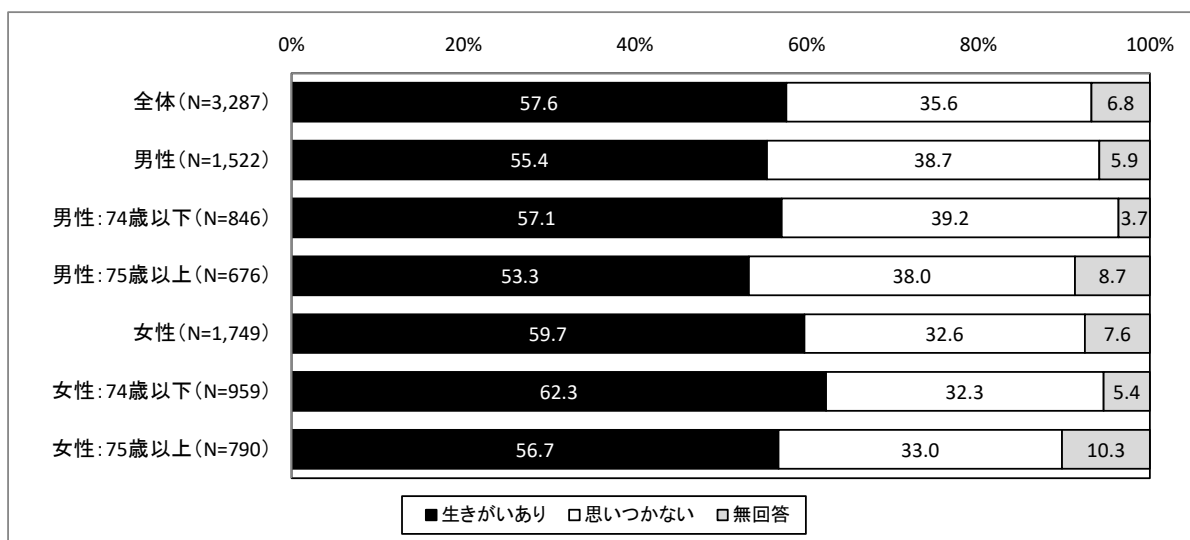
(2) 社会参加の状況

① 生きがいについて

生きがいがあるか尋ねたところ、全体では、「生きがいあり」と回答した人の割合は57.6%となっています。

性・年代別にみると、「生きがいあり」の割合が最も高いのは女性74歳以下の62.3%に対して、最も低いのは男性75歳以上の53.3%と、性別・年代によって違いがみられます。

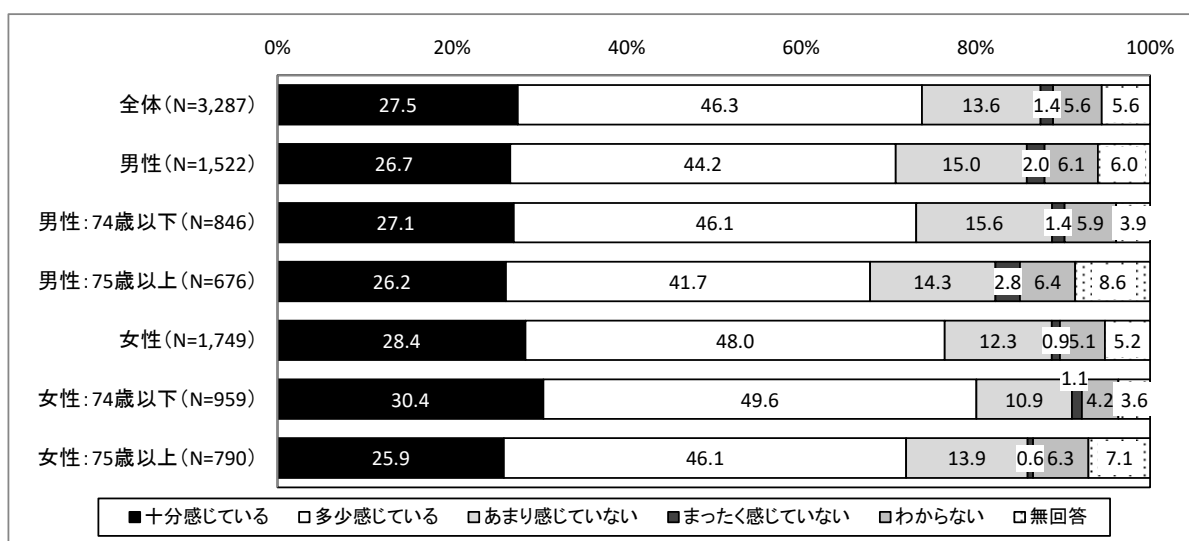
■ 生きがいの有無（性別・年代別）



生きがい（喜びや楽しみ）を感じている程度について、全体では、「多少感じている」と回答した人の割合が 46.3%で最も高く、「十分感じている」（27.5%）と合わせた『感じている』の割合は 73.8%と、約7割となっています。

性・年代別にみると、『感じている』の割合が最も高いのは女性 74 歳以下（80.0%）に対して、最も低いのは男性 75 歳以上（67.9%）と、性別・年代によって違いがみられます。

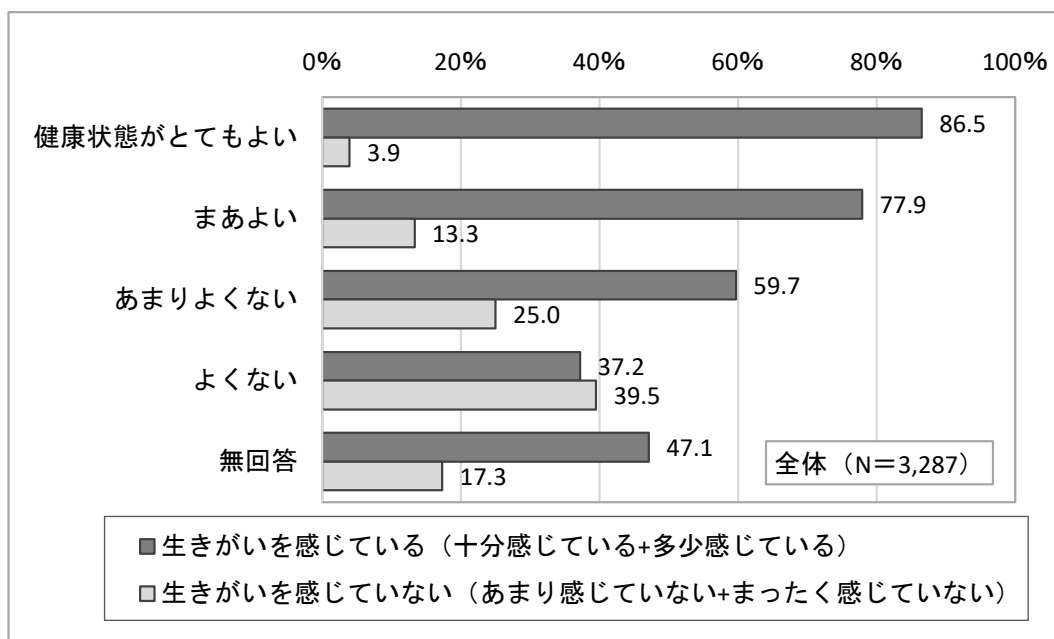
■生きがい（喜びや楽しみ）を感じている程度（性別・年代別）



14 ページの「主観的健康観」と「生きがい（喜びや楽しみ）を感じている程度」とをクロス集計した結果が、次のグラフになります。

「健康状態がとてもよい」「まあよい」「あまりよくない」「よくない」への項目の変化に比例して、「生きがいを感じている」人の割合は減り、「生きがいを感じていない」人の割合が増えていることが分かります。

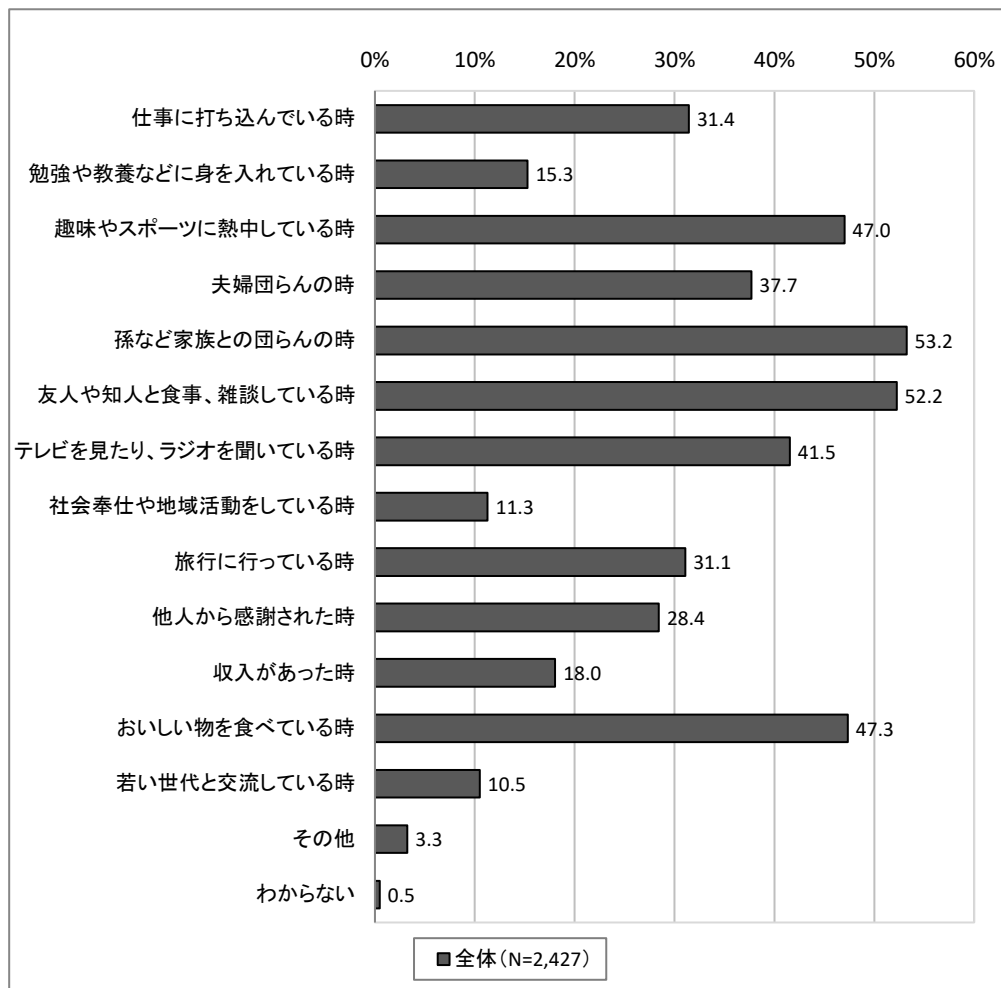
■主観的健康観と生きがい（喜びや楽しみ）を感じている程度との関係



生きがい（喜びや楽しみ）を感じている程度について、「十分に感じている」、「多少感じている」と回答した人に、生きがい（喜びや楽しみ）を感じるのはどのようなときか尋ねました。

生きがい（喜びや楽しみ）を感じている時について、全体では、「孫など家族との団らんの時」が 53.2%と最も高く、次いで、「友人や知人と食事、雑談している時」が 52.2%、「おいしい物を食べている時」が 47.3%と続いています。

■ 生きがい（喜びや楽しみ）を感じている時



第2章 高齢者を取り巻く現状と課題

■生きがい（喜びや楽しみ）を感じている時（性別・年代別・日常生活圏域別）

属性	区分	全体	仕事に打ち込んでいる時	勉強や教養などに身を入れている時	趣味やスポーツに熱中している時	夫婦団らの時	孫など家族との団らの時	友人や知人と食事、雑談している時	テレビを見たり、ラジオを聞いている時	社会奉仕や地域活動をしている時	旅行に行っている時	他人から感謝された時	収入があつた時	おいしい物を食べている時	若い世代と交流している時	その他	わからない
総数	-	100.0	31.4	15.3	47.0	37.7	53.2	52.2	41.5	11.3	31.1	28.4	18.0	47.3	10.5	3.3	0.5
		2,427	763	371	1,141	915	1,292	1,268	1,008	274	754	690	438	1,149	255	79	12
性別	男性	100.0	35.7	15.6	52.0	48.7	48.1	39.3	36.8	13.6	30.1	24.7	17.3	38.1	9.6	2.5	0.4
		1,078	385	168	561	525	519	424	397	147	325	266	187	411	104	27	4
	女性	100.0	28.0	14.9	42.8	28.6	57.4	62.8	45.4	9.4	31.9	31.4	18.6	54.7	11.3	3.9	0.6
		1,337	375	199	572	383	767	840	607	126	427	420	249	731	151	52	8
無回答	100.0	25.0	33.3	66.7	58.3	50.0	33.3	33.3	8.3	16.7	33.3	16.7	58.3	0.0	0.0	0.0	
	12	3	4	8	7	6	4	4	1	2	4	2	7	0	0	0	
年齢	65～69歳	100.0	41.0	15.7	48.9	39.6	56.1	55.5	34.0	12.2	36.9	32.5	22.7	48.2	13.0	2.9	0.6
		656	269	103	321	260	368	364	223	80	242	213	149	316	85	19	4
	70～74歳	100.0	32.7	17.5	50.5	39.8	52.8	51.7	36.0	11.1	33.5	28.5	18.1	46.5	9.4	2.9	0.1
		731	239	128	369	291	386	378	263	81	245	208	132	340	69	21	1
	75～79歳	100.0	26.0	15.9	49.7	42.9	54.3	56.3	47.5	13.3	30.8	29.6	18.1	45.9	9.9	3.8	0.2
		503	131	80	250	216	273	283	239	67	155	149	91	231	50	19	1
	80～84歳	100.0	23.9	11.9	42.0	32.8	52.9	53.2	56.7	10.2	27.6	24.6	14.3	51.5	9.2	2.7	0.7
		293	70	35	123	96	155	156	166	30	81	72	42	151	27	8	2
	85～89歳	100.0	24.2	11.2	36.0	21.1	42.9	37.3	46.6	8.1	14.9	17.4	8.7	41.6	9.3	3.7	1.2
		161	39	18	58	34	69	60	75	13	24	28	14	67	15	6	2
	90歳	100.0	16.9	4.2	16.9	15.5	49.3	32.4	53.5	2.8	7.0	22.5	11.3	52.1	12.7	8.5	2.8
		71	12	3	12	11	35	23	38	2	5	16	8	37	9	6	2
無回答	100.0	25.0	33.3	66.7	58.3	50.0	33.3	33.3	8.3	16.7	33.3	16.7	58.3	0.0	0.0	0.0	
	12	3	4	8	7	6	4	4	1	2	4	2	7	0	0	0	
日常生活圏域	前原東	100.0	31.6	16.2	50.7	37.2	51.1	54.7	43.5	10.4	31.8	29.3	18.3	45.5	12.1	5.2	1.2
		481	152	78	244	179	246	263	209	50	153	141	88	219	58	25	6
	前原西	100.0	24.3	15.1	52.3	41.9	50.1	49.5	43.5	8.7	39.2	28.0	15.9	47.3	9.3	2.6	0.4
		497	121	75	260	208	249	246	216	43	195	139	79	235	46	13	2
	前原	100.0	35.3	17.1	41.8	31.9	55.1	53.9	40.3	14.0	25.1	31.7	20.7	47.4	8.4	3.1	0.6
		479	169	82	200	153	264	258	193	67	120	152	99	227	40	15	3
	二丈	100.0	32.3	15.0	45.1	40.4	53.8	50.2	43.4	10.9	28.6	28.0	17.7	51.7	11.8	2.1	0.0
		468	151	70	211	189	252	235	203	51	134	131	83	242	55	10	0
	志摩	100.0	34.1	12.7	44.5	36.5	56.1	53.5	37.3	12.7	30.6	25.1	17.8	44.7	11.4	3.3	0.2
		490	167	62	218	179	275	262	183	62	150	123	87	219	56	16	1
無回答	100.0	25.0	33.3	66.7	58.3	50.0	33.3	33.3	8.3	16.7	33.3	16.7	58.3	0.0	0.0	0.0	
	12	3	4	8	7	6	4	4	1	2	4	2	7	0	0	0	

「自主的に行われている活動への参加意向」の設問において、「活動・参加したいものはない」以外の回答をした人に、参加したい団体や組織について尋ねました。

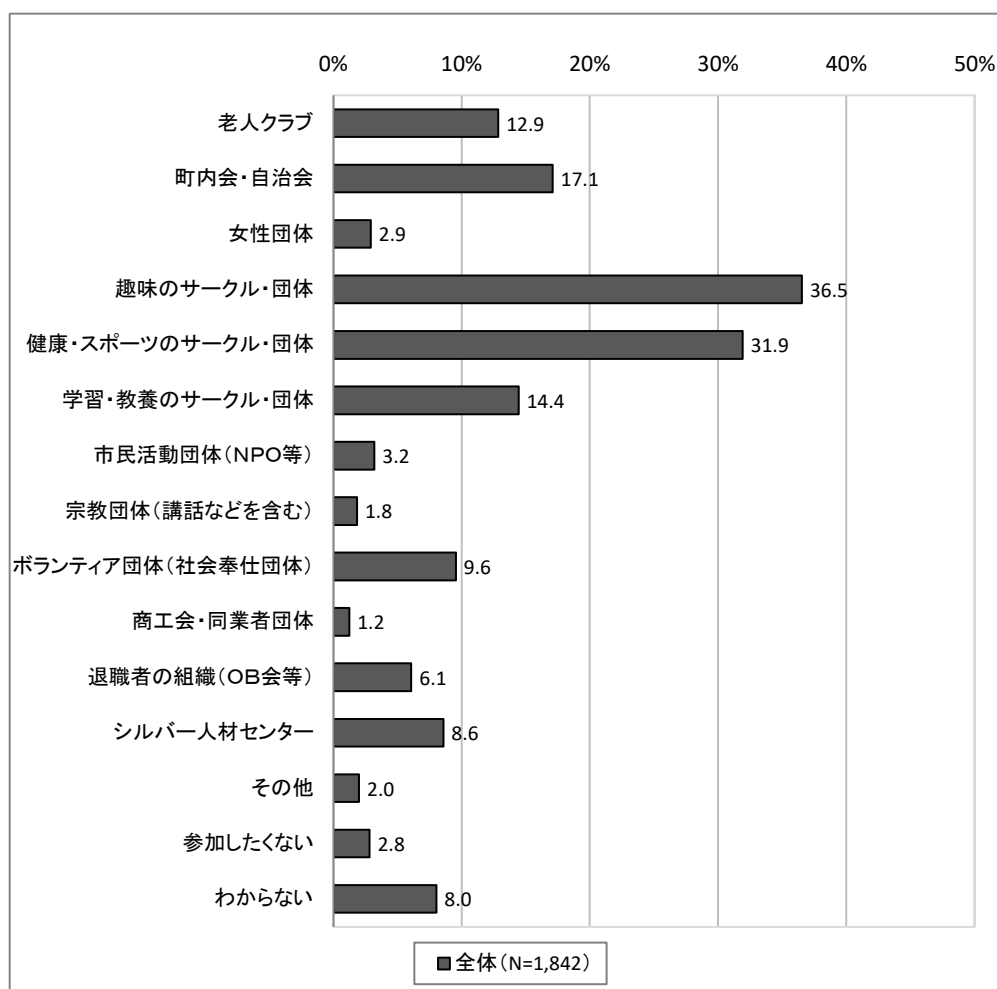
全体では、「趣味のサークル・団体」が36.5%と最も高く、次いで「健康・スポーツのサークル・団体」が31.9%、町内会・自治会が17.1%と続いています。

性別にみると、男性は女性に比べて「老人クラブ」(14.5%)、「町内会・自治会」(21.1%)、「シルバー人材センター」(11.2%)等の割合が高くなっています。一方で、女性は男性に比べて「趣味のサークル・団体」(41.0%)、「健康・スポーツのサークル・団体」(32.5%)、「学習・教養のサークル・団体」(15.8%)等の割合が高くなっています。

年代別にみると、65～89歳では「趣味のサークル・団体」が最も高く、90歳以上では「老人クラブ」が最も高くなっています。

圏域別にみると、いずれの圏域も「趣味のサークル・団体」が最も高くなっています。

■参加したい団体や組織



第2章 高齢者を取り巻く現状と課題

■ 参加したい団体や組織（性別・年代別・日常生活圏域別）

属性	区分	全体	老人クラブ	町内会・自治会	女性団体	趣味のサークル・団体	健康・スポーツのサークル・団体	学習・教養のサークル・団体	市民活動団体（NPO等）	宗教団体（講話などを含む）	ボランティア団体（社会奉仕団体）	商工会・同業者団体	退職者の組織（OB会等）	シルバー人材センター	その他	参加したくない	わからない
総数	-	100.0	12.9	17.1	2.9	36.5	31.9	14.4	3.2	1.8	9.6	1.2	6.1	8.6	2.0	2.8	8.0
		1,842	237	315	54	673	588	266	59	34	176	23	112	158	37	52	148
性別	男性	100.0	14.5	21.1	0.2	31.5	31.2	12.9	3.4	1.5	9.8	2.4	9.3	11.2	1.9	2.7	6.9
		890	129	188	2	280	278	115	30	13	87	21	83	100	17	24	61
	女性	100.0	11.4	13.2	5.5	41.0	32.5	15.8	3.1	2.2	9.3	0.2	3.1	6.1	2.1	3.0	9.2
		942	107	124	52	386	306	149	29	21	88	2	29	57	20	28	87
無回答	100.0	10.0	30.0	0.0	70.0	40.0	20.0	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	10	1	3	0	7	4	2	0	0	1	0	0	1	0	0	0	
年齢	65～69歳	100.0	3.8	17.9	2.9	35.9	34.1	14.4	4.6	1.8	10.0	2.4	4.7	9.9	1.6	2.7	9.5
		548	21	98	16	197	187	79	25	10	55	13	26	54	9	15	52
	70～74歳	100.0	10.3	16.2	2.5	39.4	32.5	14.0	2.7	1.7	9.0	1.2	5.6	9.0	1.9	2.5	9.3
		591	61	96	15	233	192	83	16	10	53	7	33	53	11	15	55
	75～79歳	100.0	20.5	18.4	4.1	38.1	32.7	17.6	4.1	2.4	12.7	0.3	10.0	9.7	1.4	2.4	5.1
		370	76	68	15	141	121	65	15	9	47	1	37	36	5	9	19
	80～84歳	100.0	23.7	14.6	2.0	30.8	30.8	10.6	1.5	1.5	8.6	1.0	5.1	5.6	4.0	5.1	6.6
		198	47	29	4	61	61	21	3	3	17	2	10	11	8	10	13
	85～89歳	100.0	23.9	17.4	3.3	31.5	22.8	15.2	0.0	1.1	3.3	0.0	4.3	3.3	2.2	3.3	6.5
		92	22	16	3	29	21	14	0	1	3	0	4	3	2	3	6
	90歳以上	100.0	27.3	15.2	3.0	15.2	6.1	6.1	0.0	3.0	0.0	0.0	6.1	0.0	6.1	0.0	9.1
		33	9	5	1	5	2	2	0	1	0	0	2	0	2	0	3
無回答	100.0	10.0	30.0	0.0	70.0	40.0	20.0	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0	
	10	1	3	0	7	4	2	0	0	1	0	0	1	0	0	0	
日常生活圏域	前原東	100.0	14.3	18.4	3.0	40.1	35.2	16.8	4.9	2.7	11.0	0.5	5.8	8.2	1.1	3.3	8.5
		364	52	67	11	146	128	61	18	10	40	2	21	30	4	12	31
	前原西	100.0	9.9	14.0	2.0	34.5	32.5	14.7	3.0	0.8	7.4	0.8	5.6	8.6	2.5	3.3	8.1
		394	39	55	8	136	128	58	12	3	29	3	22	34	10	13	32
	前原	100.0	12.3	15.6	4.2	33.8	29.3	14.0	1.7	2.8	10.6	1.4	9.5	7.8	2.2	3.1	10.1
		358	44	56	15	121	105	50	6	10	38	5	34	28	8	11	36
	二丈	100.0	12.6	17.4	2.9	38.9	31.1	12.9	3.1	1.4	9.4	2.6	5.7	11.1	1.4	2.9	8.3
		350	44	61	10	136	109	45	11	5	33	9	20	39	5	10	29
	志摩	100.0	15.6	19.9	2.7	34.7	31.1	13.7	3.3	1.6	9.6	1.1	4.1	7.1	2.7	1.6	5.5
		366	57	73	10	127	114	50	12	6	35	4	15	26	10	6	20
無回答	100.0	10.0	30.0	0.0	70.0	40.0	20.0	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0	
	10	1	3	0	7	4	2	0	0	1	0	0	1	0	0	0	

② 高齢者にやさしいまちづくり

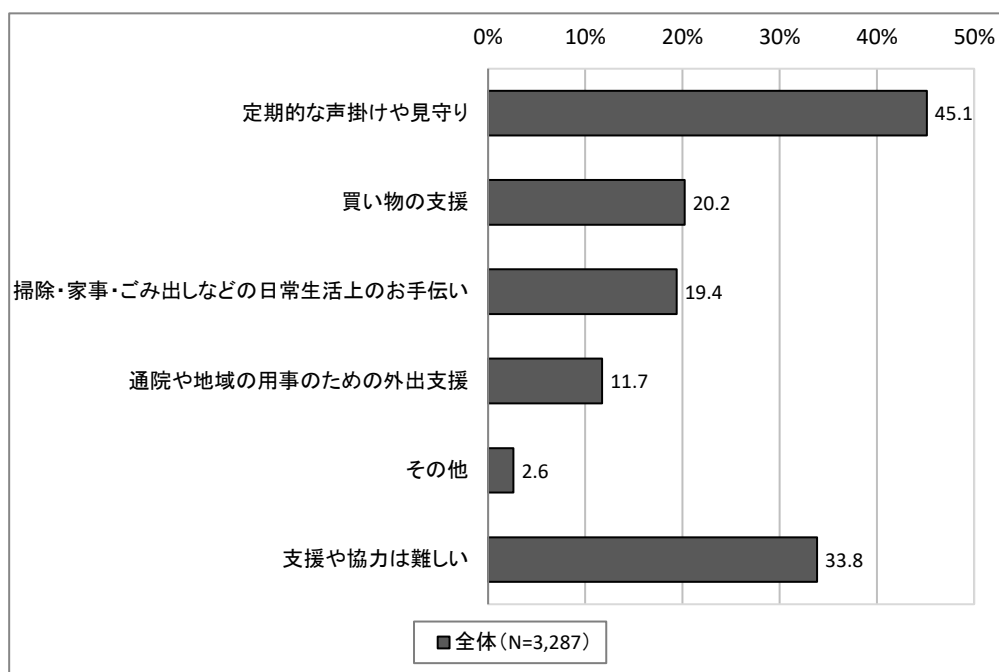
協力できる地域の支援について、全体では、「定期的な声掛けや見守り」（45.1%）が最も高く、次いで「買い物の支援」（20.2%）の順となっています。なお、「支援や協力は難しい」と回答した人は33.8%となっています。

性別にみると、いずれも「定期的な声掛けや見守り」が最も高くなっています。

年代別にみると、年代が上がるほど、「支援や協力は難しい」の割合が高くなり、他項目の割合は下がっています。

圏域別にみると、いずれの圏域も「定期的な声掛けや見守り」が最も高くなっています。

■ あなたができる地域支援や協力



■あなたができる地域支援や協力（性別・年代別・日常生活圏域別）

属性	区分	全体	定期的な声掛けや見守り	買物の支援	掃除・家事・ごみ出しなどの日常生活上のお手伝いなど	通院や地域の用事のための外出支援	その他	支援や協力は難しい
総数	-	100.0	45.1	20.2	19.4	11.7	2.6	33.8
		3,287	1,483	664	637	386	86	1,112
性別	男性	100.0	42.7	18.3	17.7	15.4	2.6	33.8
		1,522	650	278	269	235	39	515
	女性	100.0	47.2	22.0	20.9	8.5	2.7	33.6
		1,749	826	384	365	149	47	588
無回答	100.0	43.8	12.5	18.8	12.5	0.0	56.3	
		16	7	2	3	2	0	9
年齢	65～69歳	100.0	56.7	30.6	24.3	19.5	3.3	22.1
		842	477	258	205	164	28	186
	70～74歳	100.0	50.8	20.9	19.5	12.3	2.1	30.0
		963	489	201	188	118	20	289
	75～79歳	100.0	46.2	19.5	20.4	9.5	1.5	35.9
		676	312	132	138	64	10	243
	80～84歳	100.0	33.1	10.6	15.4	6.1	3.8	42.6
		423	140	45	65	26	16	180
	85～89歳	100.0	20.2	9.1	11.1	3.7	3.3	51.0
		243	49	22	27	9	8	124
90歳	100.0	7.3	3.2	8.9	2.4	3.2	65.3	
	124	9	4	11	3	4	81	
無回答	100.0	43.8	12.5	18.8	12.5	0.0	56.3	
		16	7	2	3	2	0	9
日常生活圏域	前原東	100.0	43.2	20.5	21.5	12.3	2.6	36.1
		657	284	135	141	81	17	237
	前原西	100.0	43.7	18.7	18.5	9.9	3.0	37.3
		675	295	126	125	67	20	252
	前原	100.0	44.8	21.3	20.7	12.1	1.8	35.1
		663	297	141	137	80	12	233
	二丈	100.0	46.6	18.5	18.1	10.9	3.2	31.5
		626	292	116	113	68	20	197
志摩	100.0	47.4	22.2	18.2	13.5	2.6	28.3	
	650	308	144	118	88	17	184	
無回答	100.0	43.8	12.5	18.8	12.5	0.0	56.3	
		16	7	2	3	2	0	9

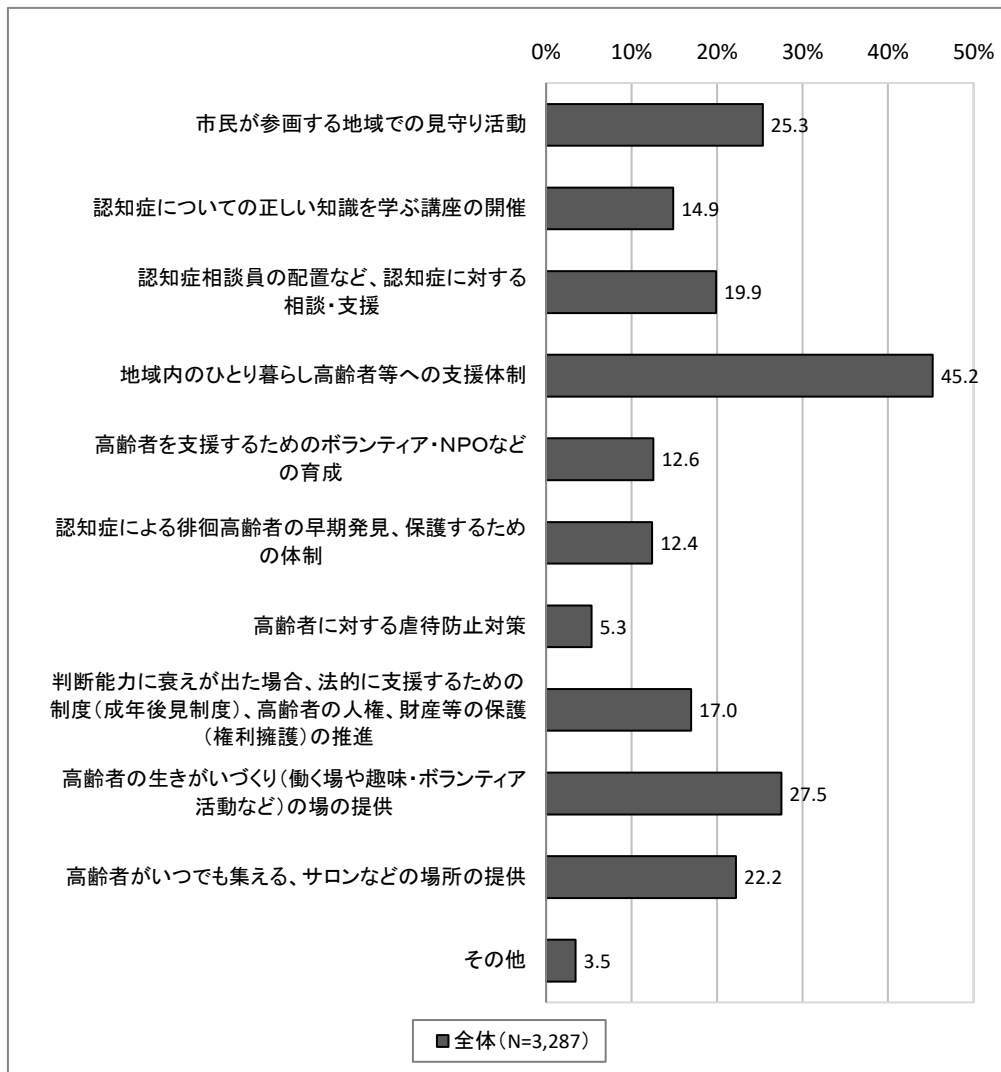
③ 高齢化に対応するために望まれる活動・体制

全体では、「地域内のひとり暮らし高齢者等への支援体制」(45.2%)が最も高く、次いで「高齢者の生きがいづくりの場の提供」(27.5%)、「市民が参画する地域での見守り活動」(25.3%)と続いています。

性別にみると、いずれも「地域内のひとり暮らし高齢者等への支援体制」が最も高くなっています。

圏域別にみると、いずれの圏域も「地域内のひとり暮らし高齢者等への支援体制」が最も高い結果となっています。

■ 高齢化に対応するために必要な活動・体制の充実



第2章 高齢者を取り巻く現状と課題

■ 高齢化に対応するために必要な活動・体制の充実（性別・年代別・日常生活圏域別）

属性	区分	全体	市民が参画する地域での見守り活動	認知症に関する講座の開催	認知症相談員の配置など、認知症に対する相談・支援	地域内のひとり暮らし高齢者等への支援体制	高齢者を支援するためのボランティア・NPOなどの育成	認知症による徘徊高齢者の早期発見、保護するための体制	高齢者に対する虐待防止対策	判断能力に衰えが出た場合、法的に支援するための制度、高齢者の人権、財産等の保護の推進	高齢者の生きがいづくりの場の提供	高齢者がいつでも集える、サロンなどの場所の提供	その他
総数	-	100.0	25.3	14.9	19.9	45.2	12.6	12.4	5.3	17.0	27.5	22.2	3.5
		3,287	833	489	653	1,487	413	408	175	558	904	730	114
性別	男性	100.0	26.5	15.3	19.1	45.7	12.9	13.5	5.1	19.1	30.0	15.6	3.7
		1,522	403	233	290	695	196	205	77	290	456	237	57
	女性	100.0	24.5	14.5	20.4	45.1	12.2	11.5	5.6	15.2	25.3	28.0	3.1
		1,749	428	254	357	788	213	202	98	266	443	490	55
無回答	100.0	12.5	12.5	37.5	25.0	25.0	6.3	0.0	12.5	31.3	18.8	12.5	
	16	2	2	6	4	4	1	0	2	5	3	2	
年齢	65～69歳	100.0	29.0	15.2	22.2	50.4	14.8	10.3	6.1	19.8	38.2	22.9	3.1
		842	244	128	187	424	125	87	51	167	322	193	26
	70～74歳	100.0	26.7	13.4	18.8	48.2	11.3	14.1	4.8	17.3	31.9	20.7	3.2
		963	257	129	181	464	109	136	46	167	307	199	31
	75～79歳	100.0	24.3	17.6	21.0	43.3	12.7	13.5	5.2	16.6	24.1	24.4	3.4
		676	164	119	142	293	86	91	35	112	163	165	23
	80～84歳	100.0	22.2	15.4	18.7	40.4	12.3	12.1	5.2	15.4	16.5	22.2	4.5
		423	94	65	79	171	52	51	22	65	70	94	19
	85～89歳	100.0	19.8	14.4	16.0	36.2	10.3	10.7	6.2	9.9	10.3	22.2	2.9
		243	48	35	39	88	25	26	15	24	25	54	7
90歳以上	100.0	19.4	8.9	15.3	34.7	9.7	12.9	4.8	16.9	9.7	17.7	4.8	
	124	24	11	19	43	12	16	6	21	12	22	6	
無回答	100.0	12.5	12.5	37.5	25.0	25.0	6.3	0.0	12.5	31.3	18.8	12.5	
	16	2	2	6	4	4	1	0	2	5	3	2	
日常生活圏域	前原東	100.0	22.5	14.9	17.7	47.0	12.8	11.1	5.5	19.0	31.4	25.0	3.7
		657	148	98	116	309	84	73	36	125	206	164	24
	前原西	100.0	23.4	16.7	24.6	46.7	15.1	13.2	5.6	17.8	26.8	18.1	2.8
		675	158	113	166	315	102	89	38	120	181	122	19
	前原	100.0	26.1	14.9	16.9	43.9	12.7	12.7	5.0	14.3	25.8	21.1	3.8
		663	173	99	112	291	84	84	33	95	171	140	25
	二丈	100.0	26.5	12.0	20.6	46.5	11.3	14.1	5.9	16.1	27.8	25.2	3.2
		626	166	75	129	291	71	88	37	101	174	158	20
志摩	100.0	28.6	15.7	19.1	42.6	10.5	11.2	4.8	17.7	25.7	22.0	3.7	
	650	186	102	124	277	68	73	31	115	167	143	24	
無回答	100.0	12.5	12.5	37.5	25.0	25.0	6.3	0.0	12.5	31.3	18.8	12.5	
	16	2	2	6	4	4	1	0	2	5	3	2	

④ 介護が必要になったときに希望する生活形態

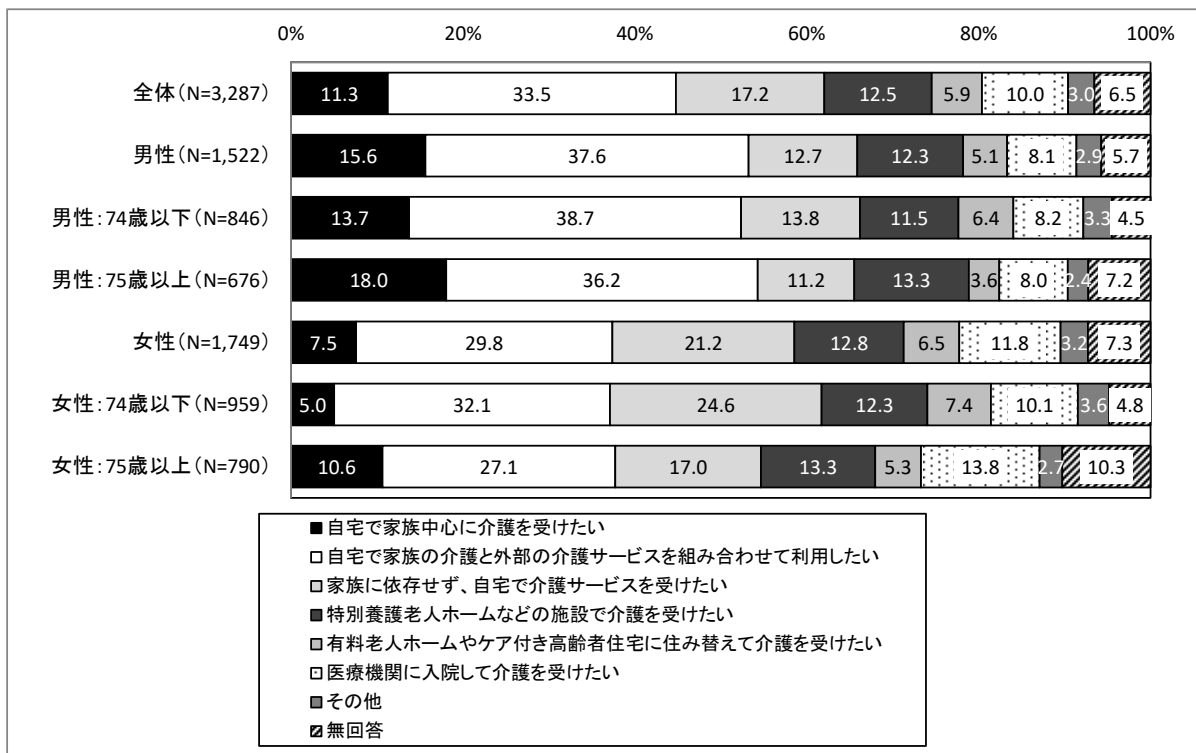
全体では、「自宅で家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて利用したい」(33.5%)が最も高く、次いで「家族に依存せず、自宅で介護サービスを受けたい」(17.2%)、「特別養護老人ホームなどの施設で介護を受けたい」(12.5%)と続いています。

性別にみると、女性は男性よりも「家族に依存せず、自宅で介護サービスを受けたい」(21.2%)の割合が高くなっています。一方、男性は「自宅で家族中心に介護を受けたい」(15.6%)、「自宅で家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて利用したい」(37.6%)が女性よりも高くなっています。

年代別にみると、年代が上がるほど「自宅で家族中心に介護を受けたい」の割合が増加し、「家族に依存せず、自宅で介護サービスを受けたい」の割合が減少する傾向にあります。

圏域別にみると、いずれの圏域も「自宅で家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて利用したい」の割合が高い結果となっています。

■ 介護が必要になったときに希望する生活形態 (性別・年代別)



■介護が必要になったときに希望する生活形態（性別・年代別・日常生活圏域別）

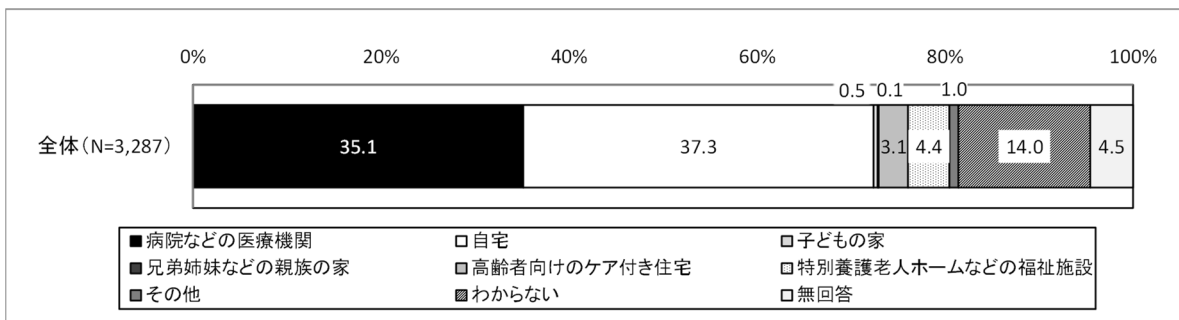
属性	区分	全体	自宅 で家族 中心に 介護を 受けた い	自宅 で家族 の介護 と外部 の介護 サービス を組み 合	家族に 依存せ ず、自 宅で 介護サ ービス を受け たい	特別 養護 老人 ホーム など の施設 で介護 を受け たい	有料 老人 ホーム やケア 付 住宅に 住み替 え たい	医療 機関に 入院し て介護 を受け たい	その他	無 回 答
総数	-	100.0	11.3	33.5	17.2	12.5	5.9	10.0	3.0	6.5
		3,287	370	1,102	567	411	193	329	100	215
性別	男性	100.0	15.6	37.6	12.7	12.3	5.1	8.1	2.9	5.7
		1,522	238	572	193	187	78	123	44	87
	女性	100.0	7.5	29.8	21.2	12.8	6.5	11.8	3.2	7.3
		1,749	132	522	370	223	113	206	56	127
無回答	100.0	0.0	50.0	25.0	6.3	12.5	0.0	0.0	6.3	
		16	0	8	4	1	2	0	0	1
年齢	65～69歳	100.0	7.4	35.3	21.3	12.7	9.4	8.4	3.0	2.6
		842	62	297	179	107	79	71	25	22
	70～74歳	100.0	10.6	35.1	18.1	11.2	4.8	9.9	3.9	6.4
		963	102	338	174	108	46	95	38	62
	75～79歳	100.0	13.2	31.7	17.9	12.4	4.1	9.6	3.0	8.1
		676	89	214	121	84	28	65	20	55
	80～84歳	100.0	14.4	32.6	10.4	16.8	5.4	9.7	2.1	8.5
		423	61	138	44	71	23	41	9	36
	85～89歳	100.0	14.0	28.0	16.5	10.7	4.5	14.0	2.1	10.3
		243	34	68	40	26	11	34	5	25
	90歳	100.0	17.7	31.5	4.0	11.3	3.2	18.5	2.4	11.3
		124	22	39	5	14	4	23	3	14
	無回答	100.0	0.0	50.0	25.0	6.3	12.5	0.0	0.0	6.3
			16	0	8	4	1	2	0	0
日常生活圏域	前原東	100.0	10.4	31.5	18.0	12.6	5.8	11.4	4.7	5.6
		657	68	207	118	83	38	75	31	37
	前原西	100.0	12.1	34.1	16.6	12.1	8.7	7.7	2.5	6.1
		675	82	230	112	82	59	52	17	41
	前原	100.0	9.0	34.7	16.9	12.5	4.7	11.6	3.0	7.5
		663	60	230	112	83	31	77	20	50
	二丈	100.0	13.3	31.5	16.9	12.1	6.5	10.9	2.4	6.4
		626	83	197	106	76	41	68	15	40
	志摩	100.0	11.8	35.4	17.7	13.2	3.4	8.8	2.6	7.1
		650	77	230	115	86	22	57	17	46
無回答	100.0	0.0	50.0	25.0	6.3	12.5	0.0	0.0	6.3	
		16	0	8	4	1	2	0	0	1

⑤ 最期を迎えたい場所

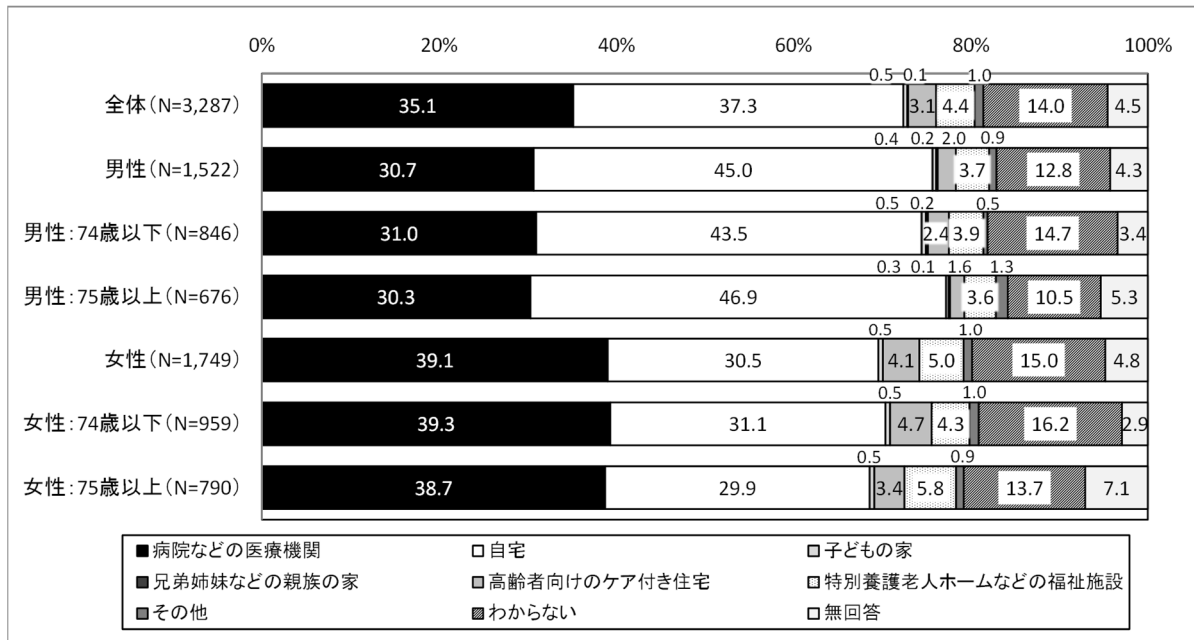
治る見込みのない病気になった場合に最期をどこで迎えたいかを尋ねたところ、市全体で、「自宅」が37.3%で最も高く、次いで「病院などの医療機関」が35.1%となっています。

性別で見ると、男性は「自宅」が45.0%と最も高く、女性は「病院などの医療機関」が39.1%と最も高くなっており、性別によって最期を迎える場所の希望が異なる結果となっています。

■ 最期をどこで迎えたいか



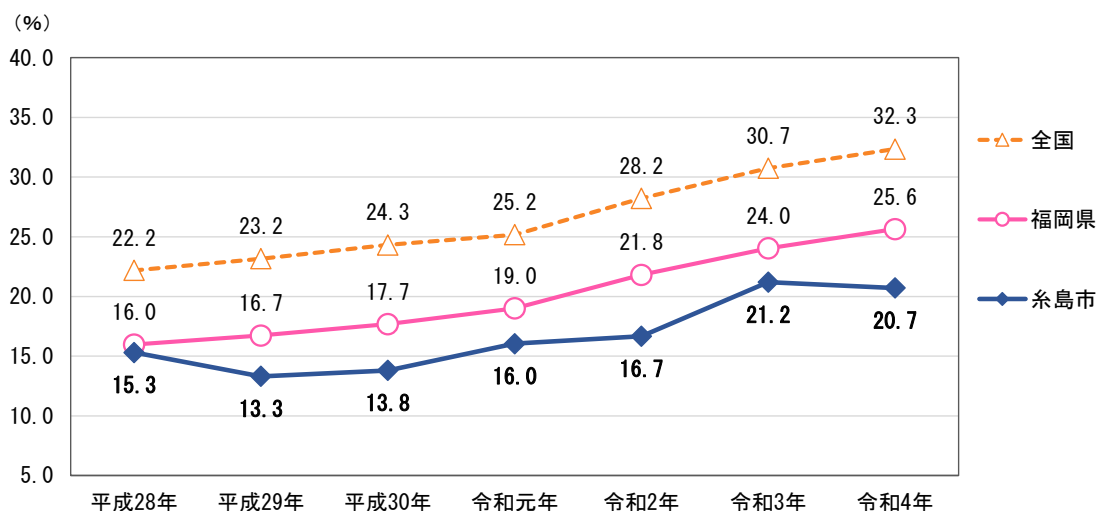
■ 最期をどこで迎えたい (性別・年代別)



次のグラフは、在宅（介護医療院・介護老人保健施設、老人ホーム及び自宅の合計をいう。以下同じ。）での死亡率の推移を国、福岡県、本市の別で表したものです。在宅死亡率は、国が最も高く、次いで福岡県、本市の順となっています。

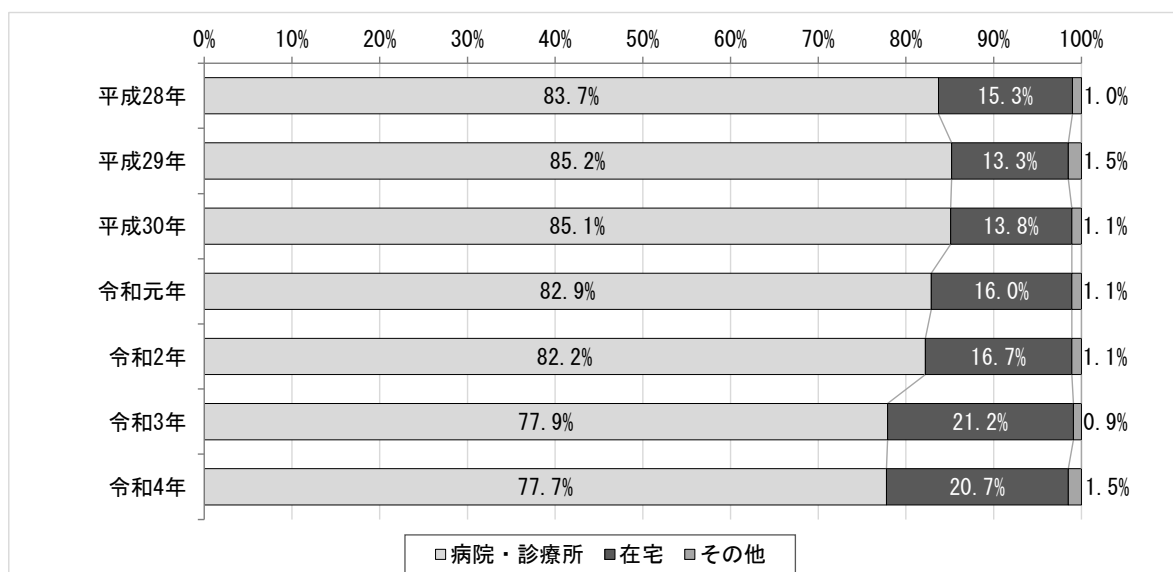
また、本市の死亡者数の割合を死亡した場所別に推移を表したグラフを見ると、在宅死亡率は、増加傾向ですが、令和4年度は20.7%に留まっており、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の「自宅で最期を迎えたい」というニーズ（37.3%）を十分に満たしているとは言いがたい状況です。

■在宅死亡率の推移



(出典：人口動態統計)

■場所別の死亡率の推移



(出典：人口動態統計)

3 高齢者の適切な在宅生活継続の実現

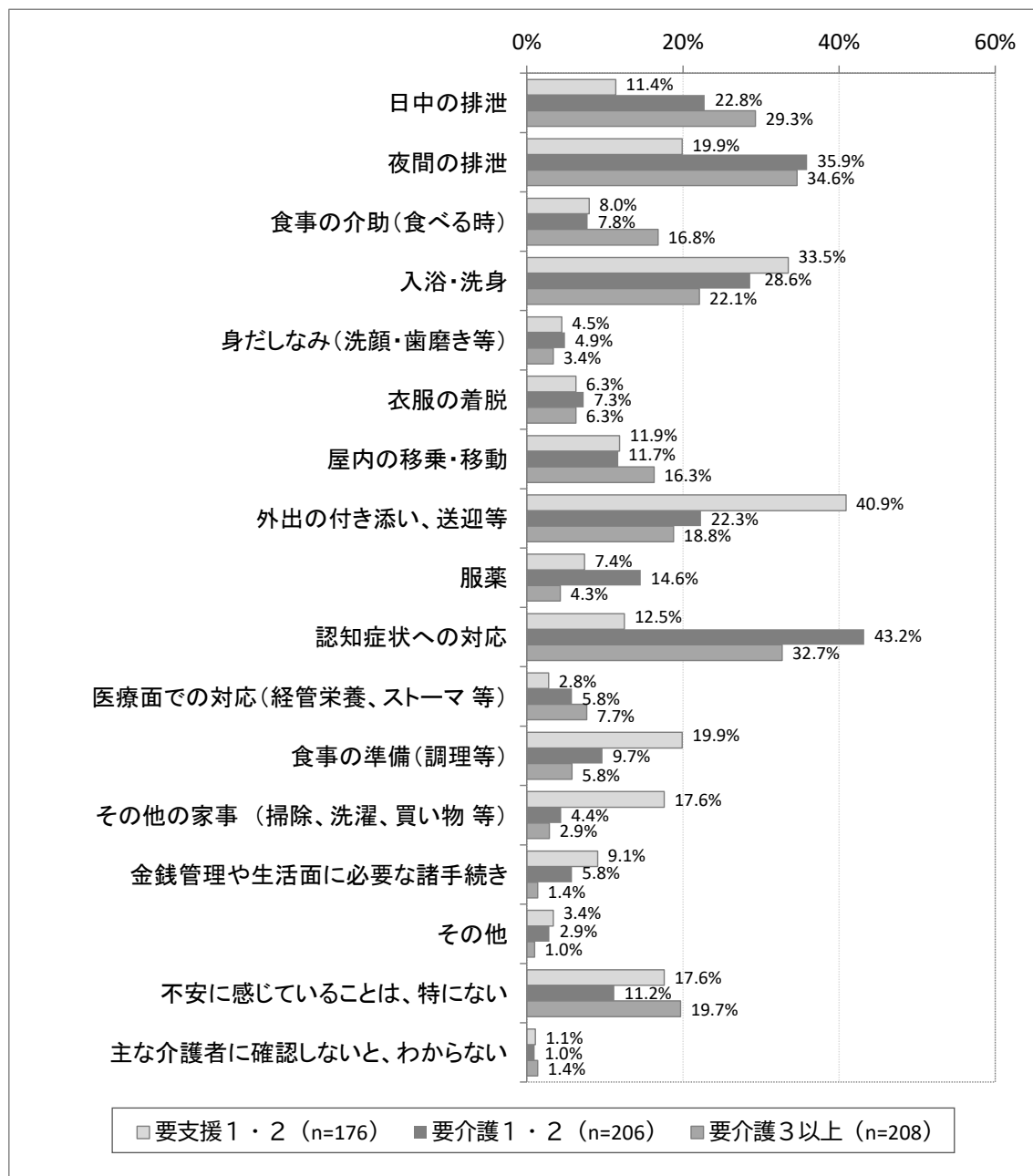
(在宅介護実態調査結果より抜粋)

(1) 在宅生活を維持するための支援・サービスの提供体制の検討

① 介護者が不安に感じる介護

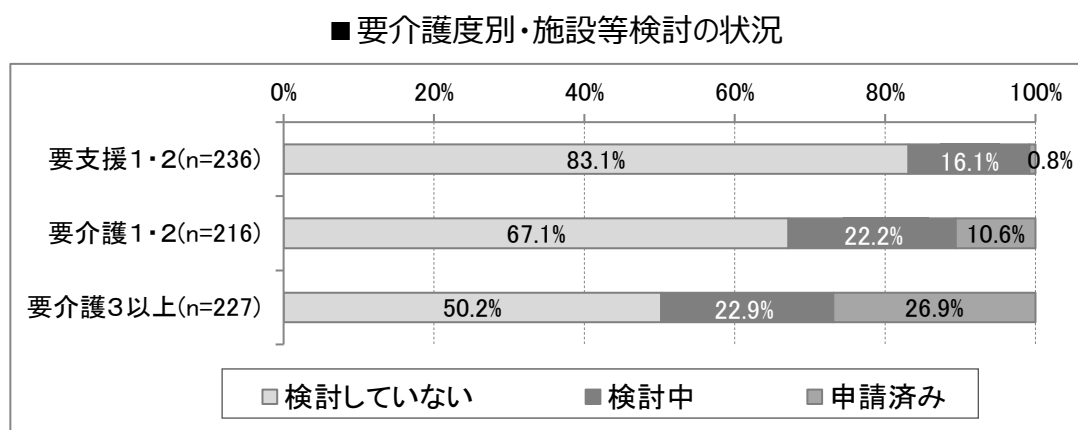
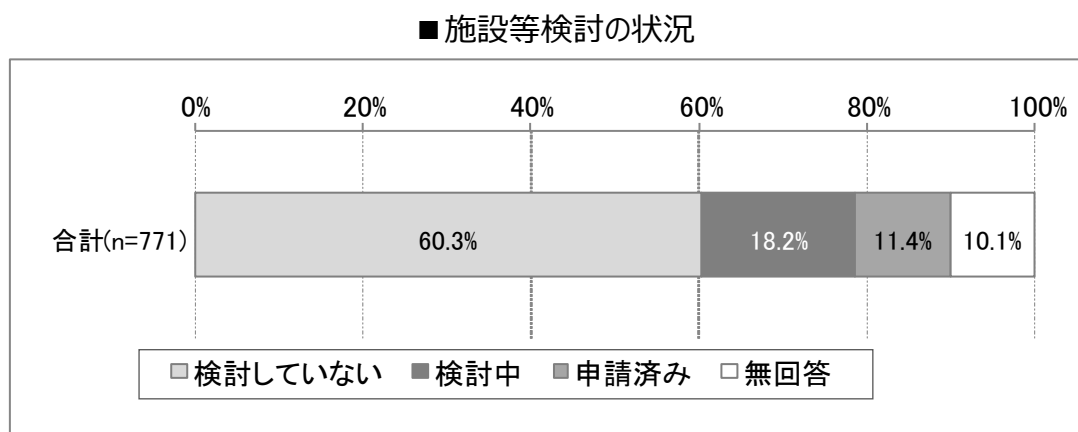
介護者が不安に感じる介護について、要介護度別にみると、要介護3以上と要介護1・2では「夜間の排泄」が34.6%と35.9%、「認知症状への対応」が32.7%と43.2%と3割を超えています。一方、要支援1・2では「外出の付き添い、送迎等」が40.9%、「入浴・洗身」が33.5%と3割を超えています。

■ 介護者が不安に感じる介護



② 施設等検討の状況

施設等検討の状況では、全体で60.3%、要介護3以上では50.2%の人が、「検討していない」と回答しています。

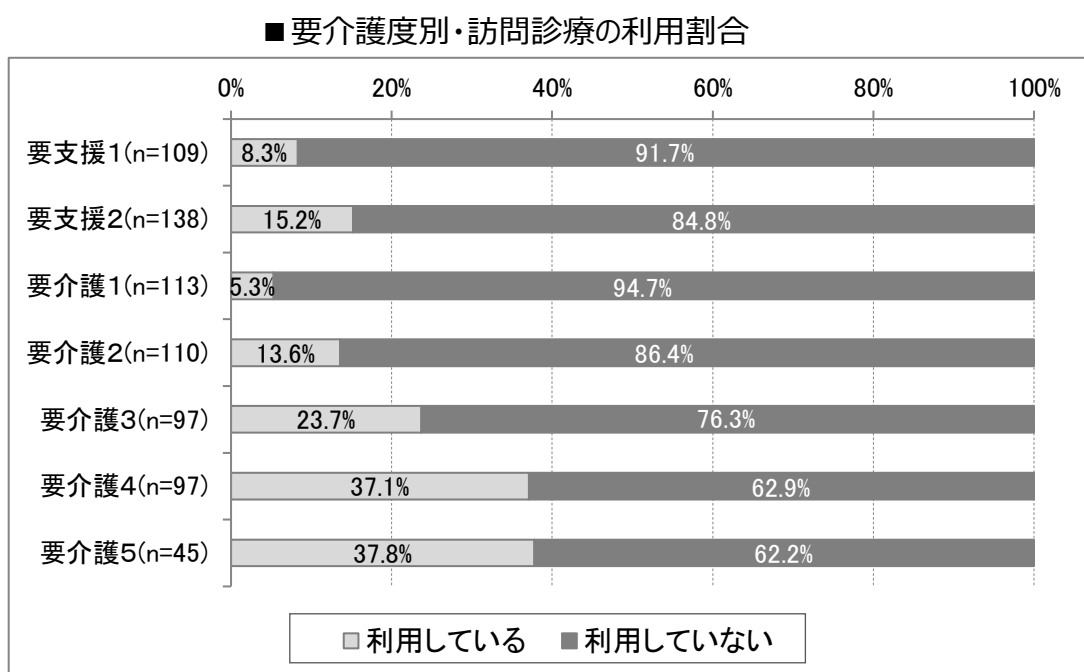


主な介護者が「在宅生活の継続が困難」と判断するポイントとして、排泄や入浴・洗身等の身体介護、認知症状への対応、家事等の生活援助が挙げられます。これらの介護不安を軽減するためには、加齢等に伴う要介護者の重度化防止、認知症の予防・重度化防止等の支援の充実に加えて、介護者に寄り添い、不安を軽減するための支援が必要です。また、重度化した認定者においても、5割以上の方が在宅生活の継続を希望していることから住み慣れた地域で暮らし続けるための包括的な支援が必要であると考えられます。

(2) 医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの提供体制の検討

① 要介護度別・訪問診療の利用割合

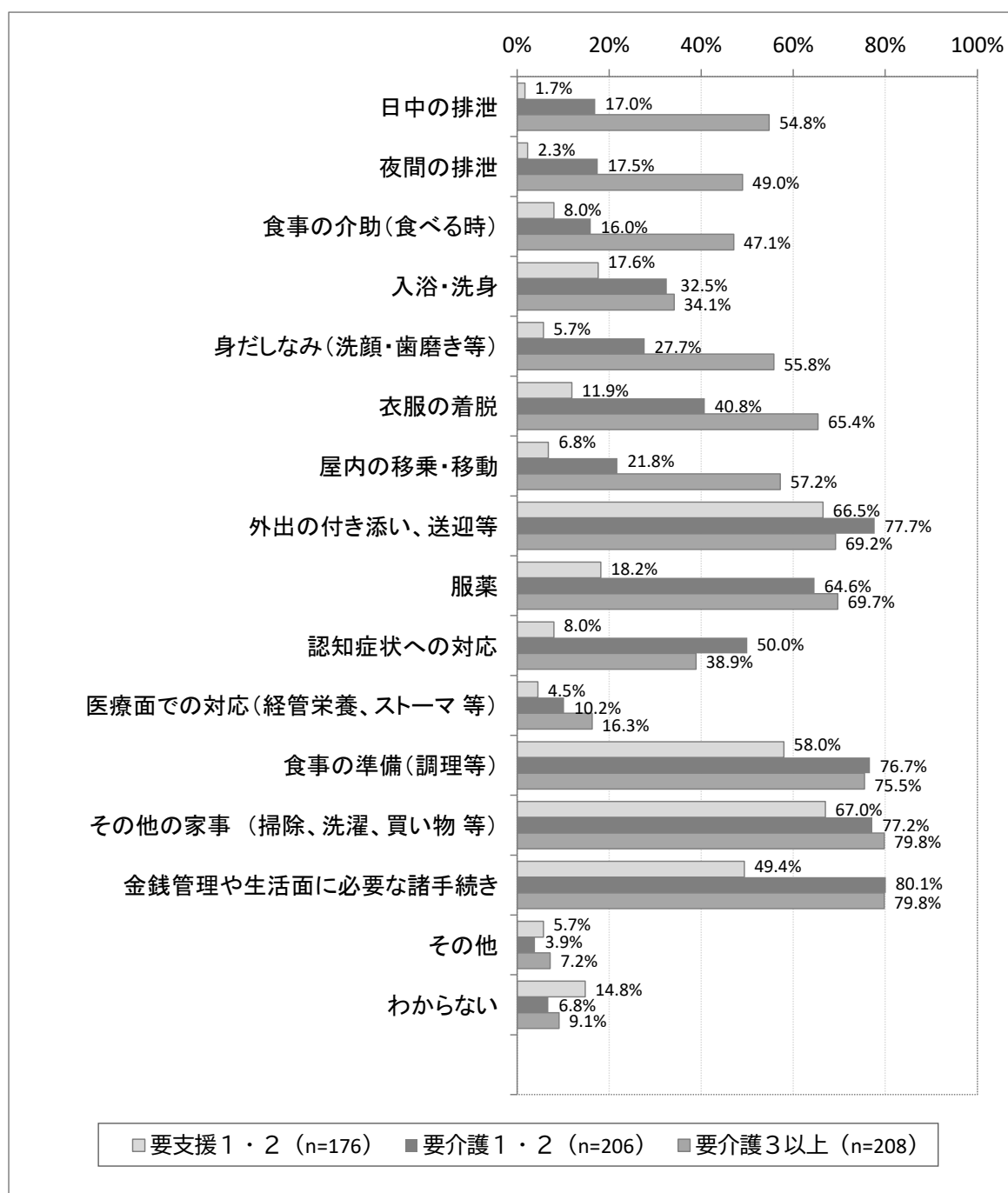
要介護度別訪問診療の割合は、要介護度が重度であるほど利用率が高くなっており、要介護3では23.7%、要介護4では37.1%、要介護5では37.8%となっています。



② 要介護度別・主な介護者が行っている介護

主な介護者が行っている介護の割合は、要介護度が重度であるほど高い傾向にあり、要介護3以上では、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が、ともに 79.8%となっています。

■ 要介護度別・主な介護者が行っている介護



①・②の結果から、要介護度が重度化するにつれて、訪問診療の利用率が高くなり、また介護者が行う介護は多岐にわたっています。今後、介護と医療の両方のニーズをもつ人の増加も予想されるため、在宅医療と介護の連携によるサービス提供体制を確保していくことが求められます。

4 計画推進における課題

(1) 地域共生社会の実現

本市では、令和4年度から重層的支援体制整備事業を開始し、地域共生社会の実現に向けた取組を推進しています。地域包括ケアシステムは、地域共生社会の実現に向けた中核となるものであり、包括センターは、重層的支援体制整備事業において、属性や世代を問わない包括的な相談支援を担うことも期待されています。そのため、包括センターの業務負担の軽減や質の確保等を目的とした体制整備が必要になっています。

また、認知症施策においては、認知症への地域社会の理解を促進し、認知症の人が尊厳を持って認知症とともに生き、認知症の有無に関わらず全ての人が地域で生活をするができる社会の実現が必要になっています。

介護予防や日常生活支援においても、資格を有する医療・介護の専門職だけでなく、地域住民が主体となって事業を行うなど、自主的な地域づくりを進めることが重要になっています。

(2) 地域の実情に応じたサービス基盤の整備

本計画期間中には、団塊の世代の人が全員75歳以上となる令和7（2025）年を迎えます。令和22（2040）年には、85歳以上人口が急増し、医療・介護双方のニーズを有する高齢者等、介護ニーズの多様化が進む見込みです。中長期的なサービス需要の見込みを地域の関係者と共有し、計画的に基盤整備を行う必要があります。

また、市民ニーズも施設サービスから居宅サービスへ移行している傾向が認められることから、居宅要介護者の様々な介護ニーズに柔軟に対応できる複合型サービスの更なる普及を目指し、整備を推進する必要があります。

(3) 介護人材の確保及び介護現場の生産性向上

今後、生産年齢人口が急速に減少することに伴い、介護人材の確保や介護現場の生産性向上を図るためには、具体的な施策の優先順位を見極め、計画的に事業を進める必要があります。福岡県の指導の下、生産性向上に資する様々な支援・施策を総合的に検討し、実情に応じた取組を進めることが必要です。

また、第8期計画期間に実施した介護人材確保につながる取組を総括するとともに、介護現場で元気な高齢者が活躍できる場を拡充する等、高齢者の介護予防につながる取組の推進を図ることも重要です。